
(仮称)屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針

※本資料では「(仮称)屋代スマートインターチェンジ」を「屋代 SIC」と称しています。

令和8年3月

長野県千曲市

【目次】

第1章 検討の概要	1
1 検討の背景・目的	1
2 (仮称)屋代SIC周辺地区まちづくり方針の位置付け	1
3 検討の範囲	2
4 検討の前提条件	3
第2章 基礎調査	13
1 千曲市全体の概況の整理・分析	13
2 屋代SIC周辺地区の概況の整理・分析	34
3 SIC周辺等のまちづくり事例	59
4 マクロ的な社会経済情勢	72
5 基礎調査のまとめ	79
第3章 団体・市民等の意見把握	81
1 市民アンケート調査	81
2 市民ワークショップ	84
3 関係者ヒアリング調査	91
第4章 屋代SIC周辺地区の役割と将来像	94
1 屋代SIC周辺地区の将来像	94
2 屋代SIC周辺地区の役割	95
第5章 屋代SIC周辺地区の整備方針	99
1 土地利用の方針	99
2 交通対策の方針	103
3 緑と景観形成の方針	105
4 防災対策の方針	107
第6章 まちづくりの効果	109
1 まちづくりの効果の考え方	109
2 まちづくりのスケジュール	109
3 まちづくりの効果の試算結果	110
第7章 屋代SIC周辺地区のまちづくりによる市内各拠点への波及と連携強化	112
1 市内各拠点の機能強化	112
2 拠点を連携するネットワークの強化	113
3 広域的な連携の強化	113
第8章 まちづくりの推進体制	115
1 推進体制の考え方	115
2 多様な主体の役割分担によるまちづくり	116

第1章 検討の概要

1 検討の背景・目的

(仮称) 屋代スマートインターチェンジ (以下「屋代SIC」と言います) は、令和5年9月の国土交通省の新規事業化決定を受け、令和6年度からNEXCO東日本による現地測量が開始されています。

また、屋代SICへのアクセス道路として、令和2年度から都市計画道路一重山線 (市道一重山2号線) の整備に着手しており、道路用地を取得し、埋蔵文化財の発掘調査が完了した箇所から順次施工を進めることとしています。

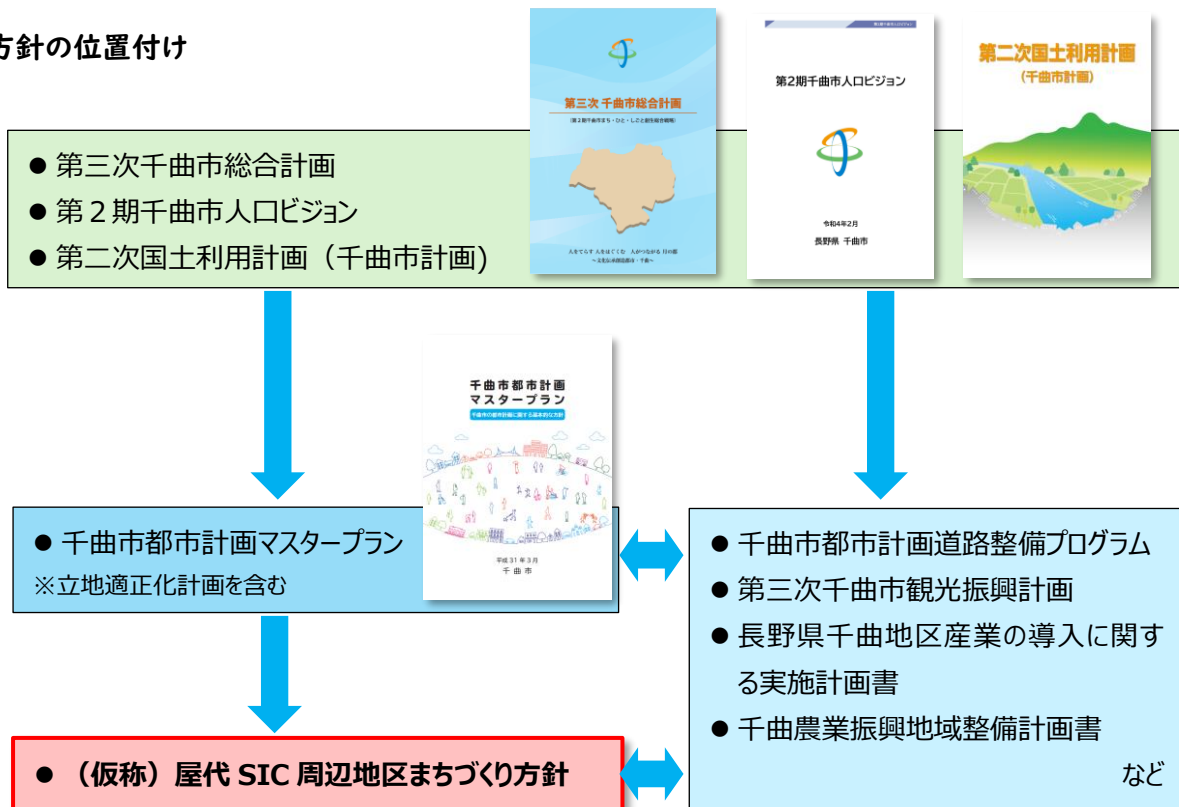
さらに、屋代SIC周辺地区では、SICの整備に伴う開発ポテンシャルの向上が期待されることから、千曲市都市計画マスタープランにおいて「上信越自動車道西側地区」として広域交流拠点、産業拠点の整備方針等が位置付けられ、現在、公民連携のまちづくりの検討が進められています。

この検討は、屋代SIC周辺地区における無秩序な市街化を抑制し、計画的な土地利用の誘導と道路交通網の整備を図り、市内全域が効果可以享受できる魅力的なまちづくりとするため、専門家やステークホルダーの意見等を踏まえ、屋代SIC周辺地区の整備方針を検討・立案し、「(仮称) 屋代SIC周辺地区まちづくり方針」としてとりまとめることを目的としています。

2 (仮称) 屋代SIC周辺地区まちづくり方針の位置付け

「(仮称) 屋代SIC周辺地区まちづくり方針」は、「第三次千曲市総合計画」や「第二次国土利用計画 (千曲市計画)」、「千曲市都市計画マスタープラン」等を上位計画とするとともに、その他個別計画との連携を図ります。

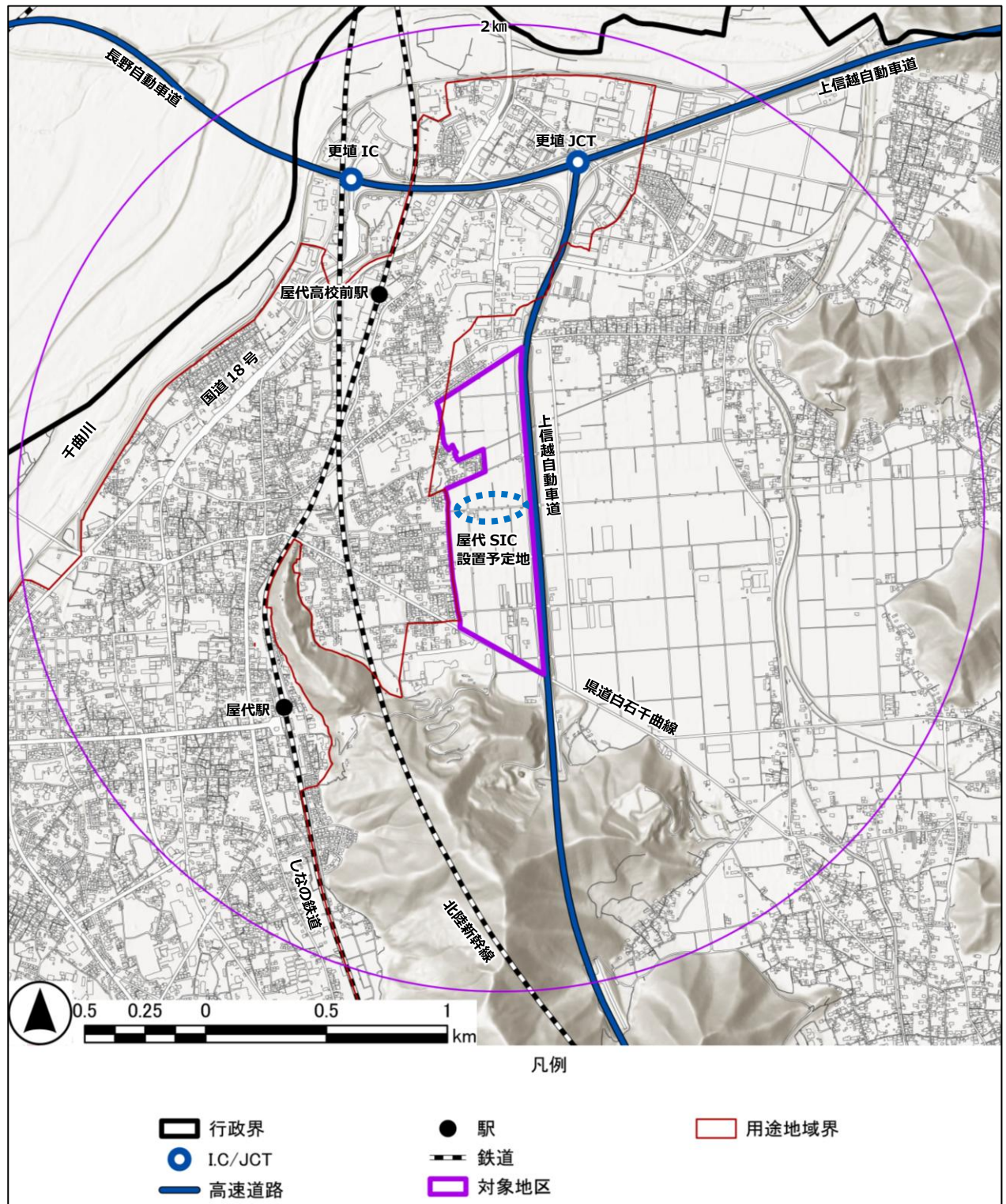
■ 方針の位置付け



3 検討の範囲

検討の範囲は、下図に示す対象地区（屋代SIC周辺地区）を基本としますが、調査分析の対象は屋代SIC周辺地区を中心とした概ね2kmの範囲を含めるものとします。

■屋代SIC周辺地区



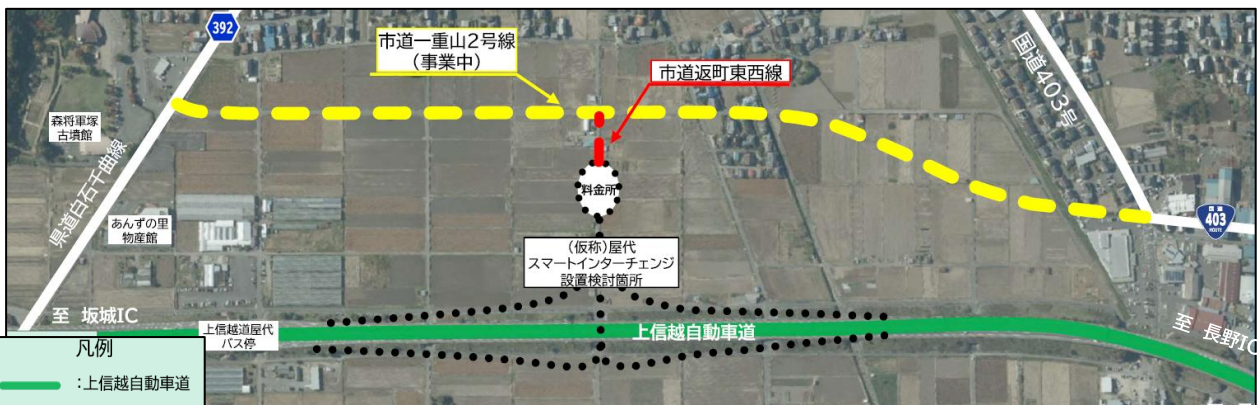
4 検討の前提条件

(1) 屋代SICの計画概要

屋代SICは、令和5年9月8日に新規事業化が決定され、令和6年度から用地測量が始まり、令和7年度内の用地取得を目指した取組が進められています。

屋代SICは、関越自動車道上越線（上信越自動車道）において、長野県千曲市屋代地区内で連結し、千曲市道返町東西線及び千曲市道一重山2号線に接続予定となります。

■屋代SICの概要



出典：千曲市「上信越自動車道（仮称）屋代スマートインターチェンジの概要について」（令和5年9月）

(2) 屋代SICの整備効果

屋代SICの設置は、千曲市の地域活性化、交通利便性の向上、産業促進、防災性向上に寄与することが期待されています。

■屋代SICの整備効果

<p>① 産業促進と物流効率化</p> 	<p>【輸送時間の短縮やコストの削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨宮産業団地、屋代・新田工業団地から、東京方面への高速道路アクセス時間が最大4分短縮 ・地域の食品会社等から東京方面への高速道路アクセス時間が約7分短縮 	<p>あんず加工製造会社から東京方面への所要時間</p>  <p>約7分短縮</p> <p>SIC整備なし SIC整備あり</p>
<p>② 住民生活の安全性向上</p> 	<p>【通学路指定道を通行する大型車が減少】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通量の分散や、雨宮産業団地や周辺の工場からの交通量に対しても通学路指定道を避けたルート選定が可能 	<p>台/日 国道403号大型車交通量</p>  <p>100台/日減少</p> <p>SIC整備なし SIC整備あり</p>
<p>③ 周辺道路の渋滞緩和</p> 	<p>【主要渋滞路線での交通量減少】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更埴ICへの一極利用集中の改善により、国道18号などで交通量が減少 ・市内2箇所（雨宮・八幡東）の大規模産業団地から想定される東京への交通量の増加に対し、主要渋滞路線を避けた選定が可能 	<p>国道18号交通量</p>  <p>700台/日減少</p> <p>SIC整備なし SIC整備あり</p>
<p>④ 観光促進</p> <p>一目十万本 あんずの里</p> 	<p>【入込客数の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あんずの里」、「科野の里歴史公園」へのアクセス時間は7分短縮されるとともに、渋滞の回避によりアクセス性が向上 ・周遊観光を誘発し、戸倉上山田温泉への宿泊客の増加が期待 	<p>県外観光客の交通手段</p>  <p>6割が高速道路利用の可能性</p>
<p>⑤ 救急救命医療の支援</p> 	<p>【生存率の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂城町・千曲市南部地区において、千曲中央病院への救急搬送時間が現状より約2分短縮 ・市東部地区において、長野赤十字病院への搬送時間が約2分短縮されるとともに、長野松代総合病院へのより安心・安全な搬送が可能 	<p>坂城町・千曲市南部から千曲中央病院へ</p>  <p>約2分短縮</p> <p>SIC整備前 SIC整備後</p>
<p>⑥ 防災支援</p> 	<p>【緊急輸送路の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水により通行不可の可能性のある緊急輸送道路の国道18号・更埴ICの代替アクセスが確保 ・主要指定避難所と第一緊急搬送路線を結ぶリダンダンシーを確保し寸断リスクを低下させ、広域からの救援・援助活動への支援が可能 	<p>浸水想定 (概ね100年に1度の大雨)</p>  <p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SIC周辺は1~2m ・更埴IC周辺は2~5m

出典：千曲市「上信越自動車道（仮称）屋代スマートインターチェンジの概要について」（令和5年9月）を基に作成

(4) 上位・関連計画における屋代SIC周辺地区の位置付け

①第三次千曲市総合計画(令和4年4月)

総合計画では、SICの整備と併せた拠点形成を図るため、新たな市街地を誘導する地区の開発推進が位置付けられています。

基本目標1 災害に強く、安全で安心な暮らしができるまち

達成方針4 【都市基盤】快適で便利な、持続可能なまちをつくる

- ・産業連携道路ネットワークの整備や新たなスマートインターチェンジの設置など、良好な都市基盤の整備を進め、広域交流拠点など、市街地を誘導する地区への計画的な開発を誘導し、産業基盤の形成による高度な土地利用を図る。

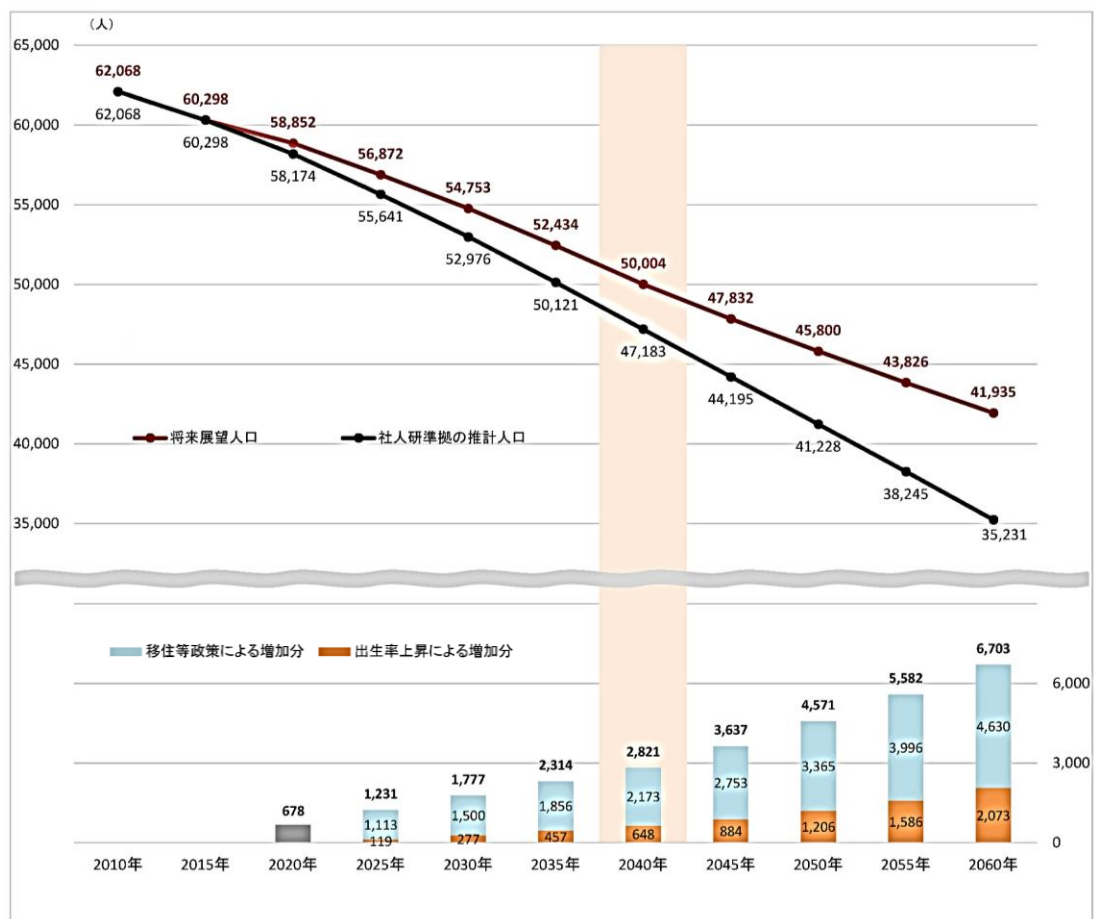
基本施策1 時代に対応した土地利用を図る。

- ・「国土利用計画(千曲市計画)」などに沿った計画的な土地利用を図る。
- ・「都市計画マスタープラン」、「立地適正化計画」等の関連計画に基づき適正な土地利用を図りつつ、時代に即したまちづくりを推進する。
- ・広域交流拠点の整備に取り組む。
- ・市街地を誘導する地区の開発を推進し、新たな産業基盤の形成による高度な土地利用を図る。

②第2期千曲市人口ビジョン(令和4年2月)

人口ビジョンでは、2040年の目標人口を50,000人としています。屋代SIC周辺地区のまちづくりでは、目標人口の前提となっている移住等による人口増加と出生率の上昇に寄与することが求められます。

■目標人口を達成するための将来展望



③第二次国土利用計画(千曲市計画)(平成30年6月)

第二次国土利用計画(千曲市計画)では、屋代地区の上信越自動車道西側周辺が市街地を誘導する地区として位置付けられています。

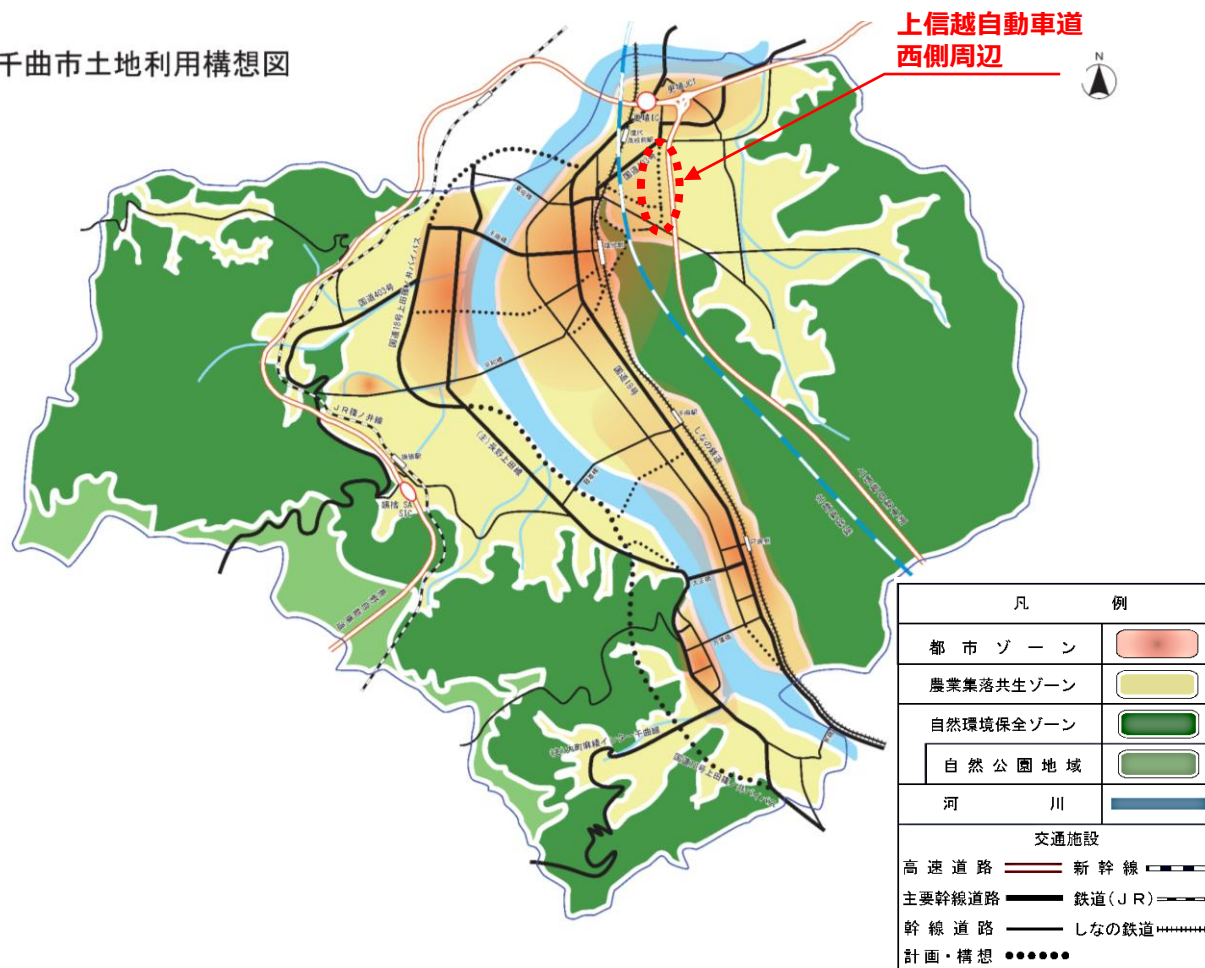
(市土地利用をめぐる基本的条件)

- ・スマートインターチェンジの設置の研究が進んでいる上信越自動車道西側地区、国道18号バイパスの一部開通している地域などは、新たな広域交流拠点や産業経済基盤の形成、産業の活性化への機運や期待感などが高まっている。

(東部市街地地域の土地利用の基本方向)

- ・屋代地区の上信越自動車道西側周辺の市街地を誘導する地区については、市全体の活性化をけん引する新たな広域交流拠点の形成のため、都市計画制度を適切に運用し、農業をはじめ周辺の土地利用や生活環境との調和に配慮しながら、既成市街地との都市機能のバランスに配慮した誘導を図る。

千曲市土地利用構想図



④千曲市都市計画マスタープラン(平成31年3月)

千曲市都市計画マスタープランでは、上信越自動車道西側地区が広域交流拠点、産業拠点として位置付けられています。

目標3 活力に満ち交流の盛んなにぎわいのある都市づくり

基本方針2 立地特性を活かした広域的な交流

- ・市全体の活性化をけん引するため、上信越自動車道西側地区にスマートインターチェンジの設置を含めた広域的な交流拠点の形成を図る。

基本方針4 地域経済の活性化

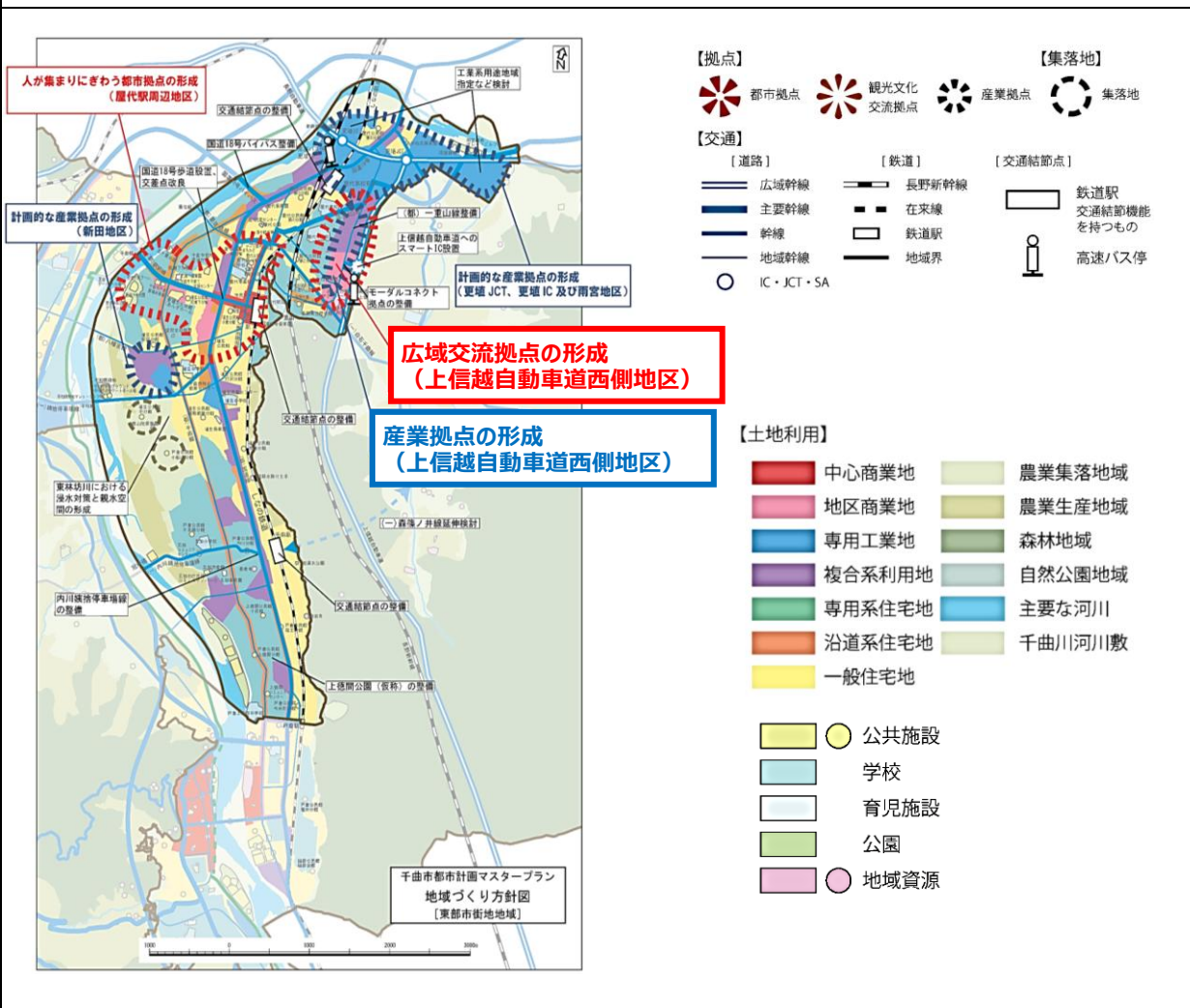
- ・高速道路網の結節点としての優位性を生かし、更埴インターチェンジ周辺地区やスマートインターチェンジの設置が検討されている上信越自動車道西側地区等、交通便利性に優れた場所への多様な産業の企業立地を図る。

(東部市街地地域の土地利用)

- ・市全体の活性化をけん引するため、上信越自動車道西側周辺の市街地を新たな広域交流拠点と位置付け、商業系や工業系用途地域の指定による適正な土地利用の誘導を図る。

(地域づくり方針(交通))

- ・上信越自動車道西側地区へのSICの設置及びアクセス道路となる(都)一重山線を整備。
- ・SIC設置予定地周辺における交通結節機能を図るため、モーダルコネクト拠点(バスターミナル等)の整備を検討。



⑤千曲市立地適正化計画(令和7年3月)

千曲市立地適正化計画では、上信越自動車道西側地区が市独自の「準誘導区域」に設定され、交通利便性の高さを活用した新たな開発が位置付けられています。

準誘導区域

- ・現時点では市街地が形成されていないものの、今後大規模な開発が予定され、地域防災力の向上や居住に寄与するエリアに対して「準誘導区域」を設定

まちづくりの方針2 魅力的で交流のある都市機能の創出

- ・市内の都市機能の充実と交通結節点における開発促進による新たな魅力の創出を図る。

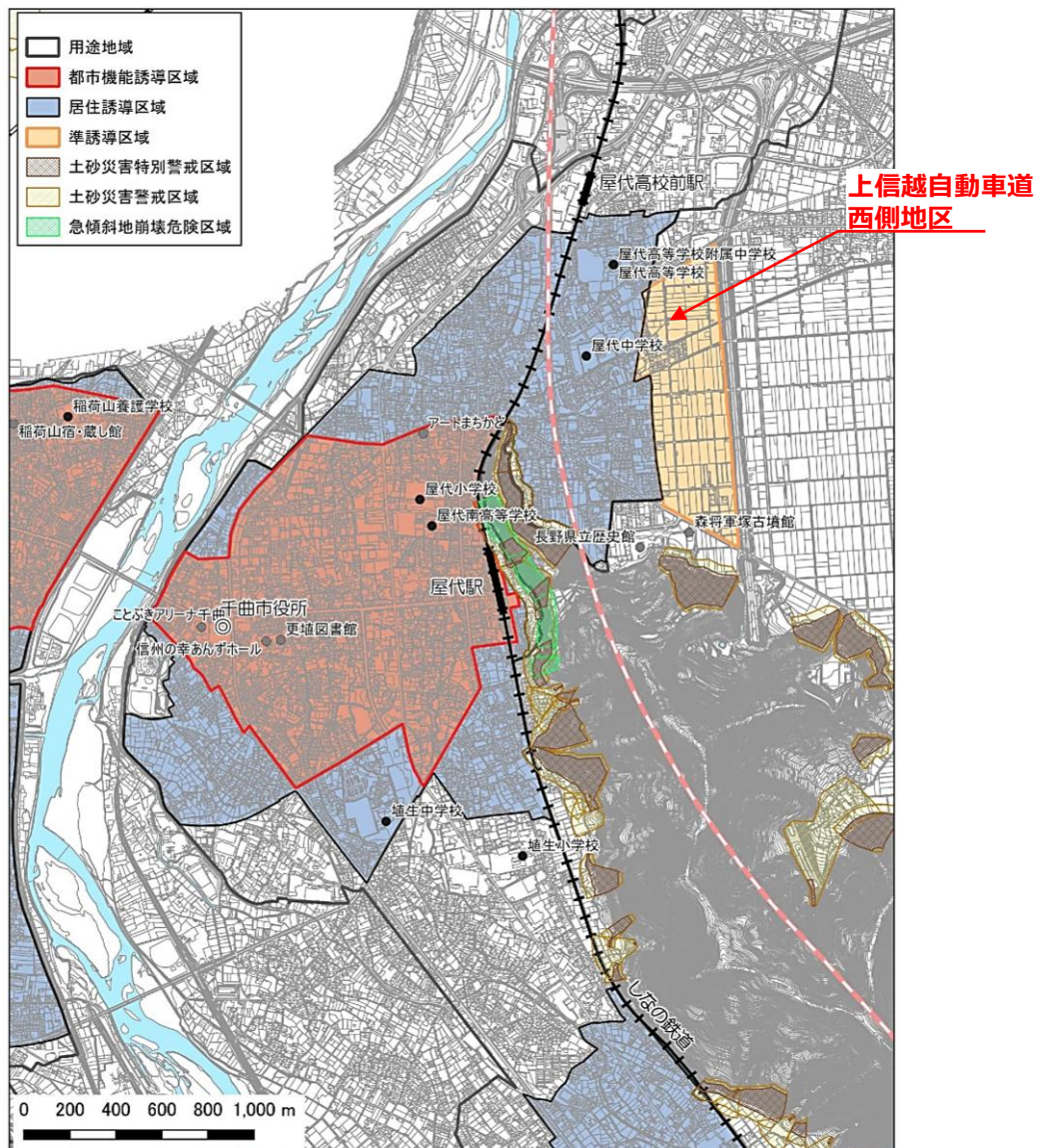
将来都市構造の構成要素 (③拠点)

- ・広域交流拠点は「上信越自動車道西側地区」としてSICを含めた市全体の活性化をけん引する新たな交流のための市街地形成を進める地区として位置づける。

誘導施策(2) 魅力ある市街地の形成

(交通結節点における開発の促進)

- ・屋代SIC周辺において、交通利便性の高さを活用した新たな開発を進める。
- ・地区の一部では公共文化ゾーンとして、子育て世代に寄与する施設の整備を図る。

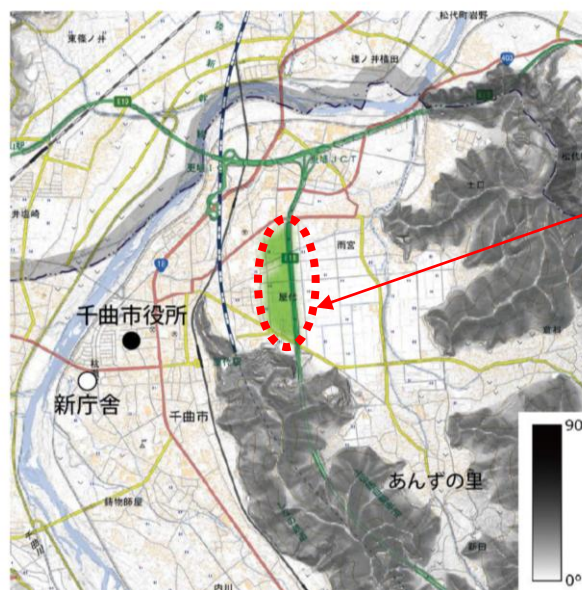


⑥千曲農業振興地域整備計画書(平成30年10月)

千曲農業振興地域整備計画書では、国土利用計画(千曲市計画)の土地利用構想図において都市地域に指定された屋代地区は、高度な土地利用調整が必要な大規模農用地に位置付けられています(現状は農用地区域)。

農用地区域の設定方針ただし書き:具体的な転用案件があり、該当計画の実施について、農振法をはじめ他法令との調整が可能であり、かつ社会情勢からやむを得ないと認められる農用地は農用地区域に含めない

地域、地区及び施設等の具体的な名称又は計画名	位置(集落名等)	面積			備考
		農用地	その他	計	
屋代地区 土地区画整理事業	屋代地区	33	2	35	国土利用計画(千曲市計画)の土地利用構想図において都市地域に指定



高度な土地利用調整が必要な大規模農用地

※土地区画整理事業は、当時想定されていた開発手法(現在は、民間事業者の開発行為により開発を進めるとしている)。

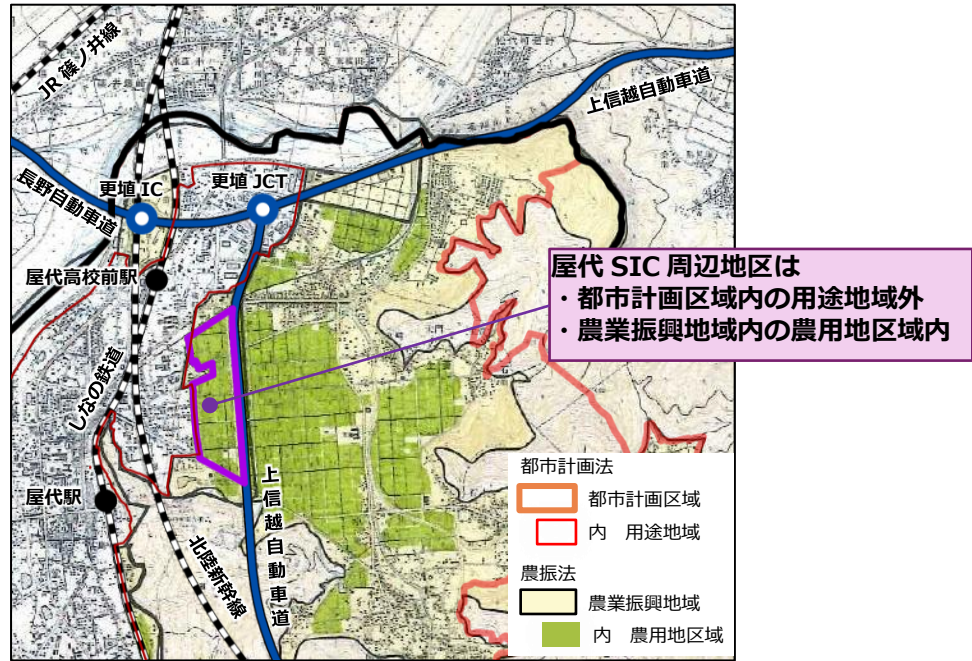
(5) 屋代SIC周辺地区に関わる土地利用関係法令制度

屋代SIC周辺地区の土地利用に係る法令として、都市計画法、農振法（農業振興地域の整備に関する法律）、農村産業法（農村地域への産業の導入の促進等に関する法律）、地域未来投資促進法（地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律）、農地法があります。これらの法令と屋代SIC周辺地区の土地利用に係る事項を下記に示します。

■ SIC周辺の土地利用に係る法令とその内容

名称	SIC周辺の土地利用に係る事項
都市計画法	<ul style="list-style-type: none"> 千曲市では、市街化区域を設定しない非線引き都市計画区域が指定され、市街地では用途地域が定められている。 SIC周辺地区は用途地域外（白地）であり、大規模集客施設（延床面積1万㎡以上）の立地が原則として制限され、立地を可能とするためには、「開発整備促進区を定める地区計画」が必要。
農振法（農業振興地域の整備に関する法律）	<ul style="list-style-type: none"> SIC周辺地区は現在、農用地区域が指定されている。 農用地区域では、農地転用等の農地調整は厳しく規制されている。 千曲農業振興地域整備計画書では、「高度な土地利用調整が必要な大規模農用地」という位置付けはあるが、これだけでは農用地区域の解除はできない。 土地利用調整（農用地区域の除外）に向けては、後述する農村産業法や地域未来投資促進法の土地利用調整のスキームを活用する必要がある（ただし、住宅への転用は対象外）。
農村産業法（農村地域への産業の導入の促進等に関する法律）	<ul style="list-style-type: none"> 農村地域において計画的な土地利用（農地利用）等を行うことにより、産業の導入を促進し、魅力ある雇用の場を創出することを目的とする。 国の基本方針に基づき、都道府県が基本計画を策定し、市町村が実施計画を策定（都道府県との協議・同意が必要）。 「土地利用の調整が整った施設」については、農用地区域除外、農地転用が可能となるよう配慮される。 千曲市では、屋代工業団地、新田工業団地、雨宮産業団地が当該土地利用調整のスキームを活用している。
地域未来投資促進法（地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律）	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性を活かして企業が実施する地域経済を牽引する取組等の支援を通じ、地域経済の活性化を図ることを目的とする。 国の基本方針に基づき、市町村及び都道府県は基本計画を策定（国の同意が必要）し、同意された基本計画に基づき、市町村が土地利用調整計画を策定（県同意）、事業者が地域経済牽引事業計画を策定（県承認）。 都道府県が同意した土地利用調整計画において調整された区域における地域経済牽引事業については、農用地区域除外、農地転用が可能となるよう配慮される。 千曲市では、八幡東産業団地が当該土地利用調整のスキームを活用している。 近隣自治体では、須坂市が須坂長野東IC周辺開発（大規模商業・工場等の立地）において、当該土地利用調整のスキームを活用している。
農地法	<ul style="list-style-type: none"> 第一種農地（10ha以上の集団的農地や土地改良事業区域内など）は、優良な営農条件を備えているため、農地法上の「立地基準」により原則として農地転用が不許可となる。 ただし、土地収用の対象となる施設（道路整備や公共施設など公益性の高い施設）や、農村産業法及び地域未来投資促進法等による調整が整った施設等は例外的に許可される。

■屋代SIC周辺地区の土地利用に関する法規制の現状



出典：千曲農業振興地域整備計画書（平成30年10月）の付図1号土地利用計画図を基に作成

第2章 基礎調査

1 千曲市全体の概況の整理・分析

(1) 地勢・歴史

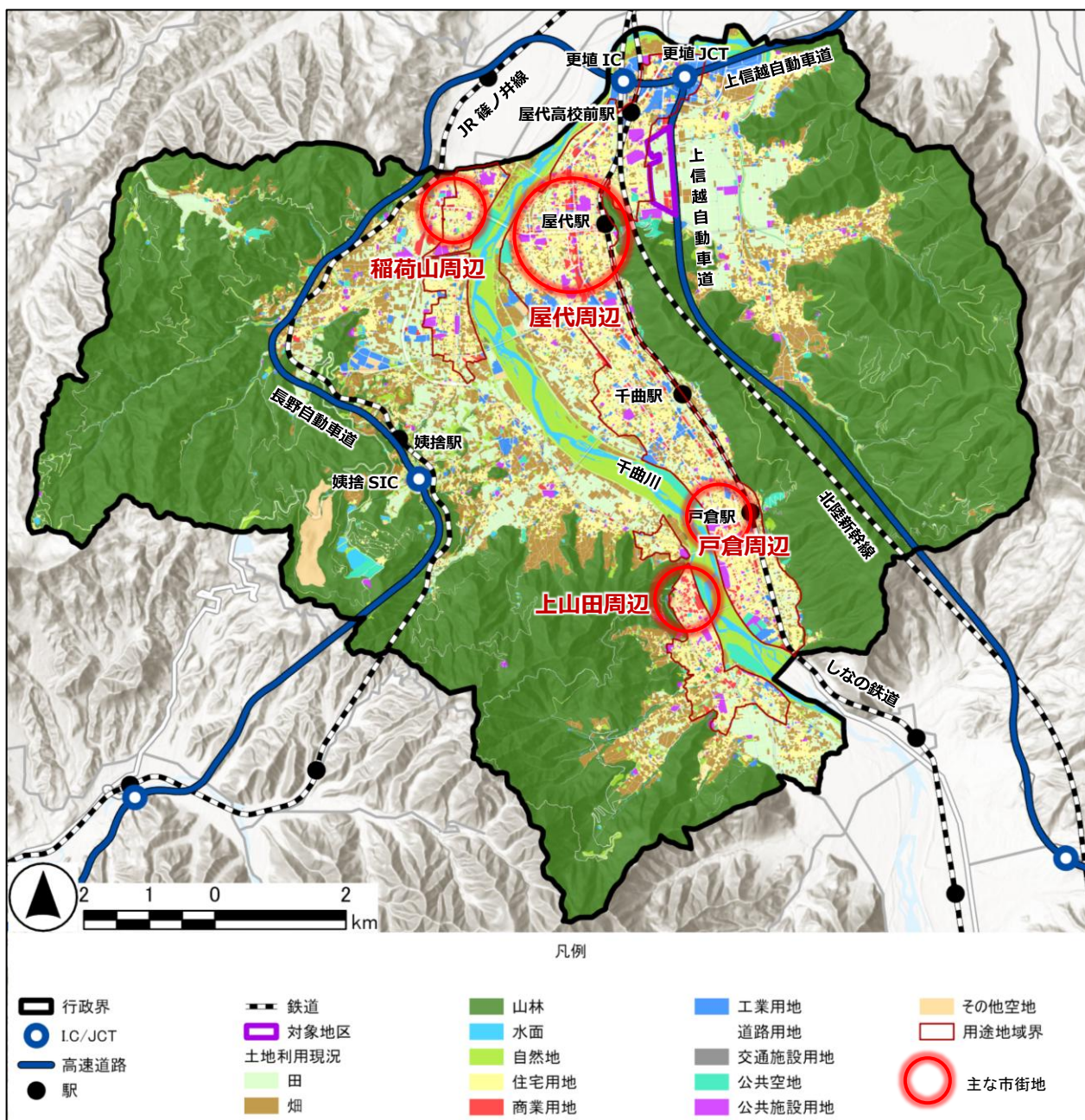
千曲市は、東西を山地に挟まれ、人口や都市機能は千曲川が形成する沖積地と東西の山麓に形成された扇状地からなる平坦部に集積しています。

歴史的には、北国街道、善光寺街道、谷街道といった街道が交差する場所として古くから交通の要衝でした。現在においても鉄道や高速道路が複数敷設された交通の要衝となっています。

交通の利便性を活かして工業立地も盛んに行われてきました。明治には温泉が掘削され、戸倉地区や上山田地区などの温泉観光地も発達しました。

本市は平成15年9月1日に、更埴市・戸倉町・上山田町の三市町の合併により誕生し、南北に市街地が分散し、主な市街地は、稲荷山周辺、屋代周辺、戸倉周辺、上山田周辺となっています。

■地形と土地利用等



出典：「千曲都市計画基礎調査」（令和3年3月）を基に作成

(2) 交通網

① 鉄道

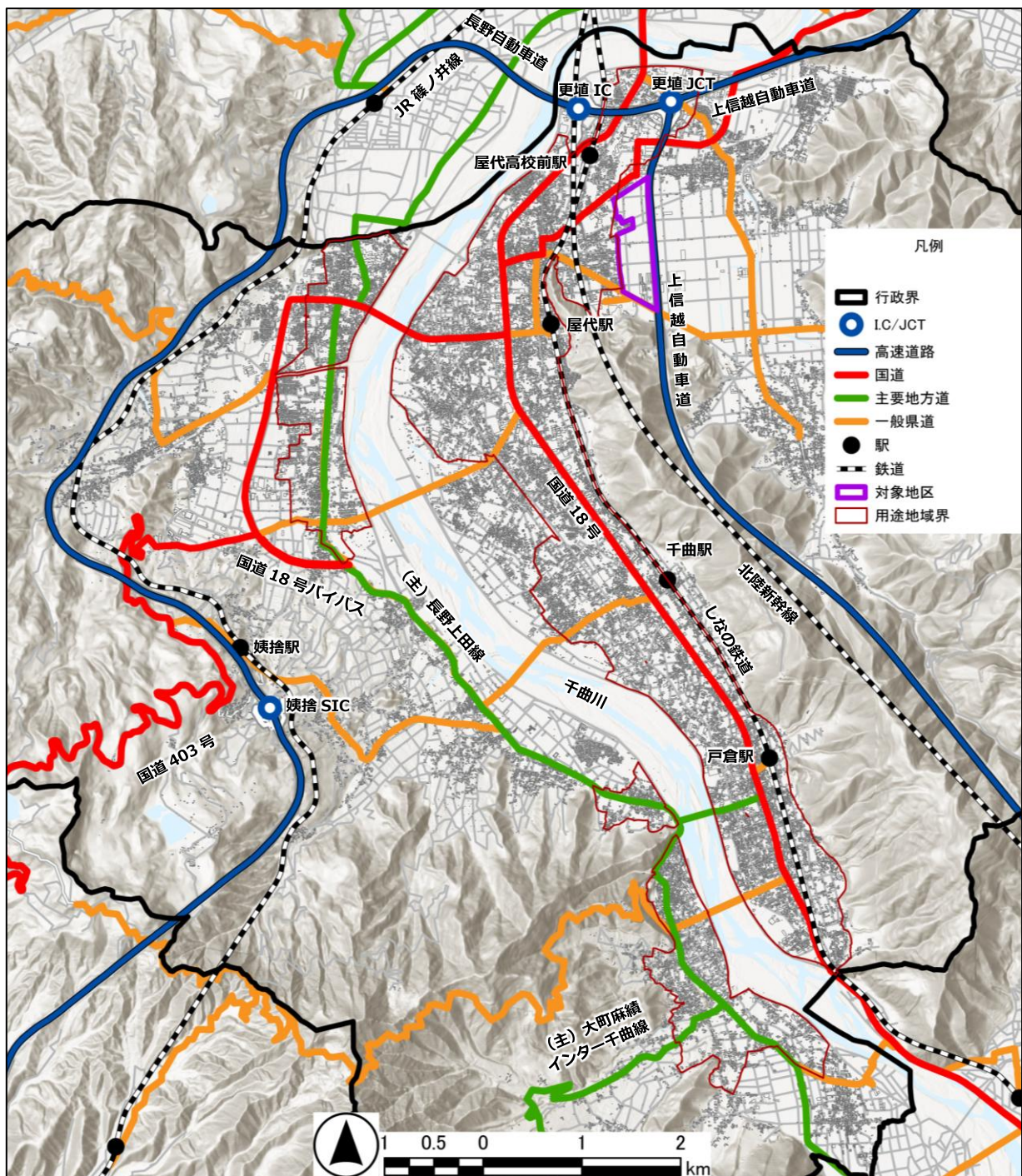
鉄道は千曲川左岸にしなの鉄道が、千曲川右岸にJR篠ノ井線が走っています。

② 道路

高速道路2路線が市内を通過し、更埴ICを主要アクセスポイントとして、国道18号より千曲市周辺地域に接続しています。

市街地の骨格となる幹線道路は、国道18号、国道403号、主要地方道長野上田線などで構成されているほか、国道18号バイパスが部分的に供用しています。

■ 交通網



出典：国土交通省「令和3年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果WEBマップ」を基に作成

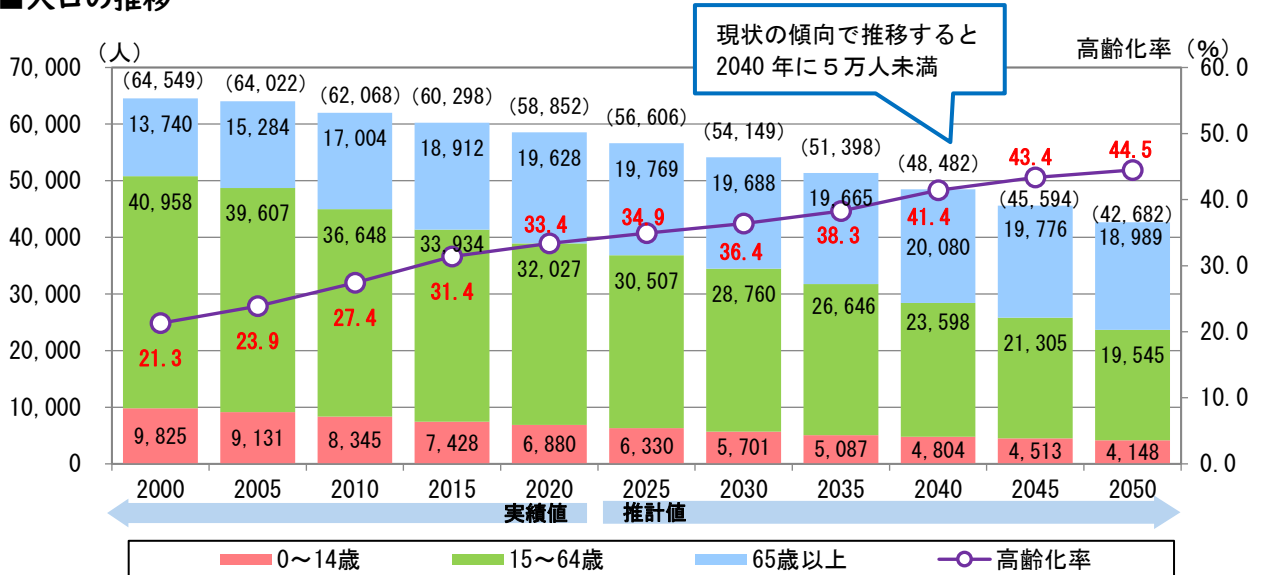
(3) 人口

①人口の推移

総人口は2000年の64,549人をピークに減少傾向に転じており、2020年には6万人を下回る58,852人となっています。また、2050年には42,682人となることが見込まれています。

年齢3区分別の人口を見ると、高齢化率（65歳以上人口の割合）は2020年の33.4%から2050年には44.5%となることが見込まれます。

■人口の推移



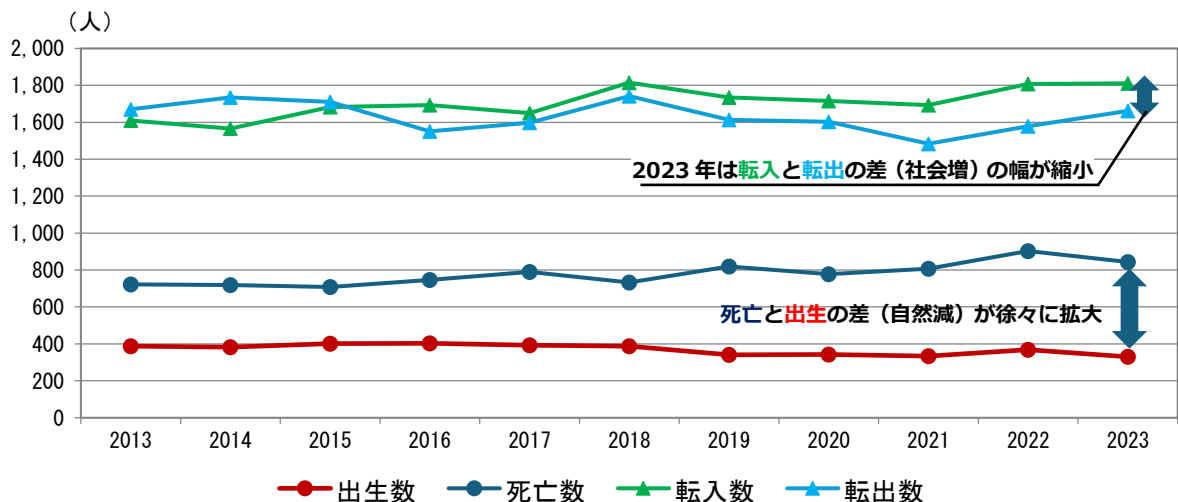
※ () 内の数値は総人口で年齢不詳を含む

出典：2000～2020年は総務省「国勢調査」を基に作成。2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」を基に作成

②人口動態

死亡数が出生数を上回る自然減の状態が継続し、死亡数と出生数の差は徐々に拡大する傾向にあります。また、転入数と転出数の推移を見ると、2016年から転入数が転出数を上回る社会増の状態が継続し、2022年まで社会増の増加幅が拡大傾向にありましたが、2022年からは転出数が増加傾向にある一方、転入数は横這い傾向がうかがえ、社会増が縮小する兆しがあります。

■人口動態の推移

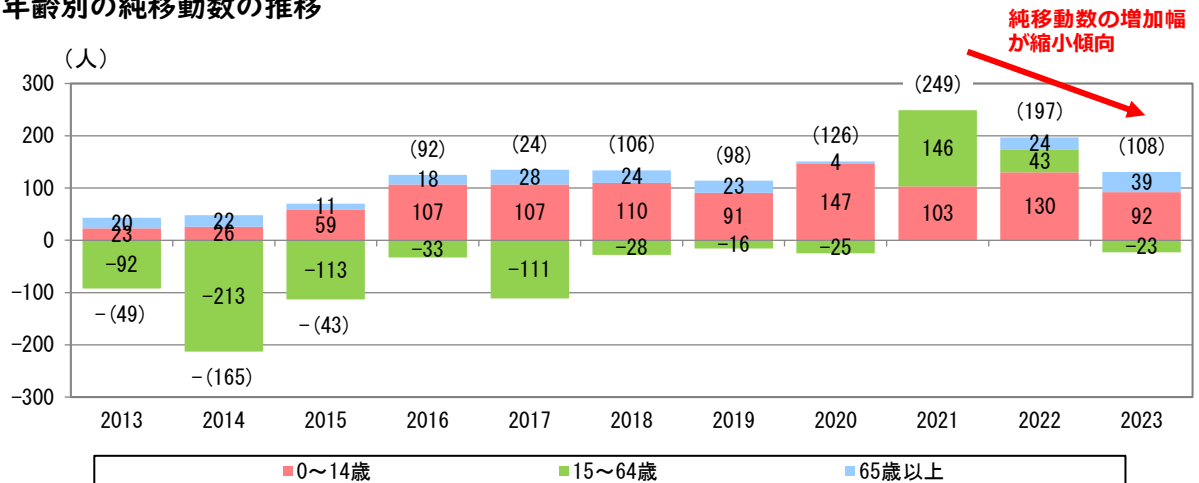


出典：長野県「毎月人口異動調査」を基に作成

③年齢別の純移動数

年齢3区分別の純移動数（転入－転出）の推移を見ると、0～14歳の純移動数がプラスで推移しており、子育て世帯が転入していると考えられます。2021・2022年は15～64歳人口の純移動数もプラスとなり、純移動数全体も200人前後まで増えましたが、2023年の15～64歳人口の純移動数が再びマイナスとなり、純移動数は縮小の兆しがあります。

■年齢別の純移動数の推移



※（ ）内の数値は総数

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（REASASの人口マップ）を基に作成

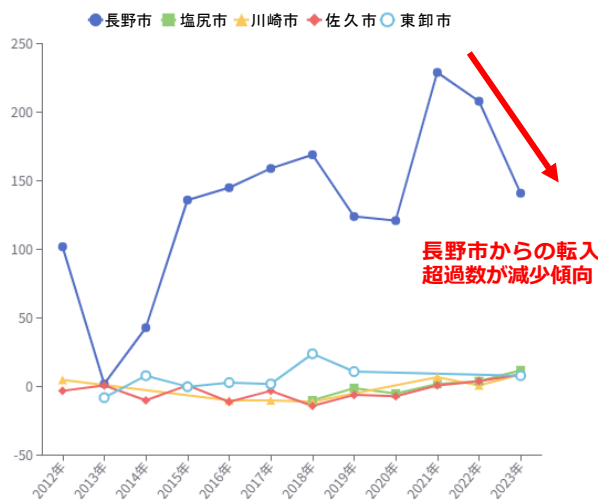
④地域別の転入・転出状況

転入超過上位の地域を見ると、長野市が卓越しており、近年の社会増は長野市からの転入者が寄与しています。既往調査※によると、その背景として、相対的な地価の安さが指摘されており、未就学児を持つ世帯が転入しやすいことが強みとなっています。ただし、長野市からの転入超過数は2021年をピークに減少傾向にあります。一方、転出超過となっている上位の地域を見ると、松本市、小諸市、名古屋市、上田市、高崎市となっています。

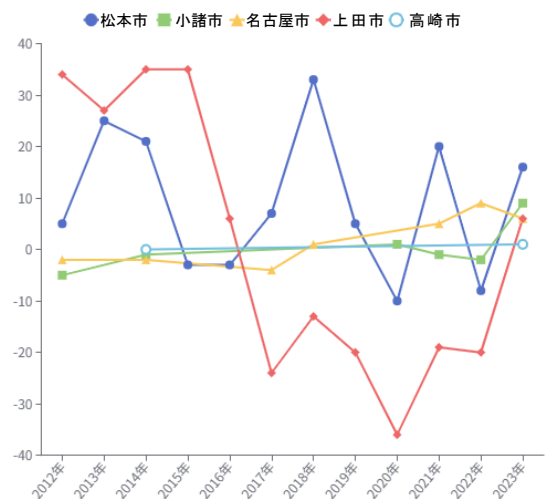
※(株)NTTデータ経営研究所「少子化対策地域評価ツールの活用促進に向けた自治体の交流機会の拡充や環境整備に係るモデル事業」（令和5年3月）

■地域別の転入超過・転出超過数の推移

【転入超過数上位5地域】



【転出超過数上位5地域】

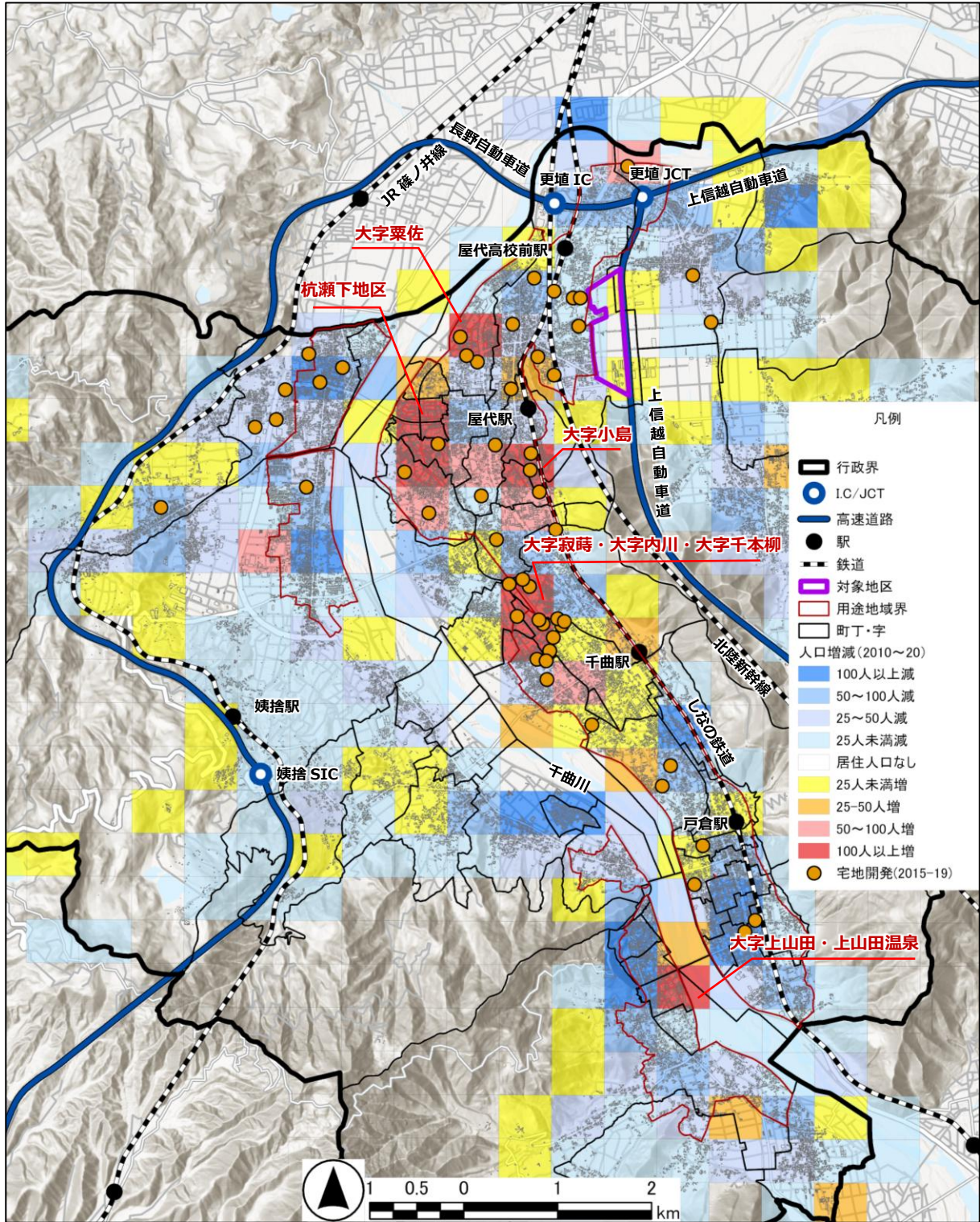


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（REASASの人口マップ）

⑤人口増減分布

2010～2020年の人口増減の分布を見ると、住宅の開発行為が行われた大字粟佐、大字小島、大字寂時・大字内川・大字千本柳等、市街地整備が行われた杭瀬下地区で人口増加が顕著です。

■人口増減分布(2010～2020年)



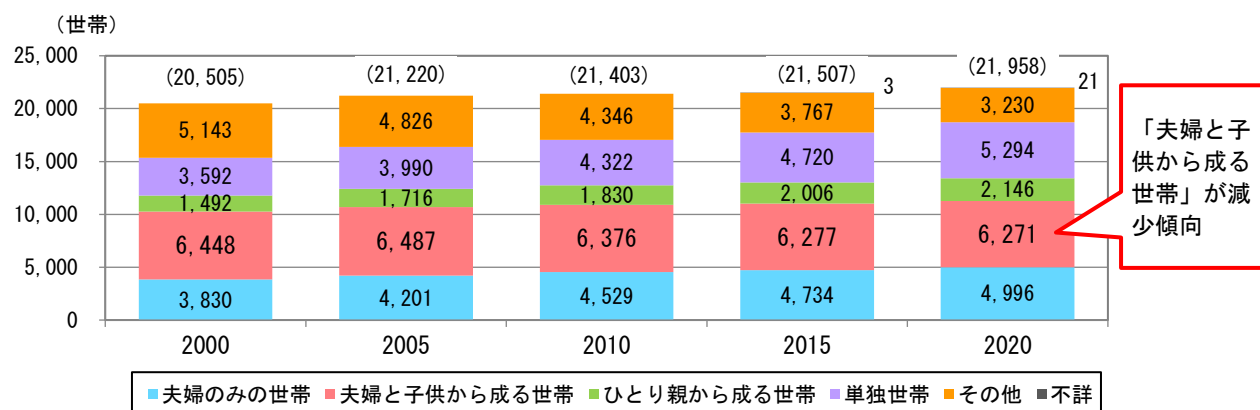
出典：総務省「国勢調査 500mメッシュデータ」を基に作成

(4) 世帯数

一般世帯数は緩やかな増加を維持していますが、既に人口が減少局面にあるため、近い将来、減少に転じることが予想されます。

また、家族類型別の世帯数の推移を見ると、「夫婦と子供から成る世帯」が2005年以降から減少傾向に転じている一方、「単独世帯」や「夫婦のみ世帯」が増加傾向にあり、少子高齢化が影響（子育て世帯が減少し、世帯分離により高齢夫婦世帯や高齢単身世帯が増加）していると考えられます。

■一般世帯数の推移



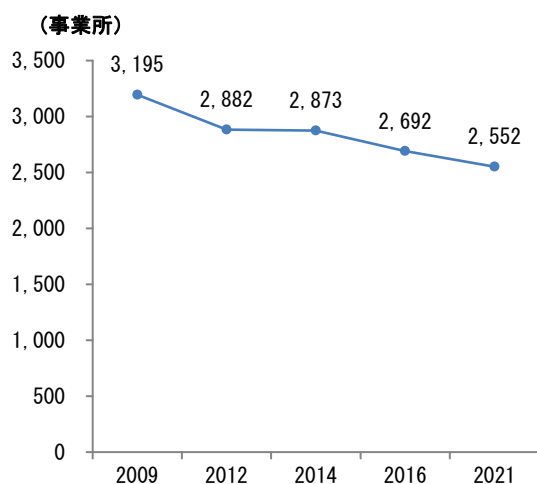
(5) 産業・観光

①事業所数・従業者数

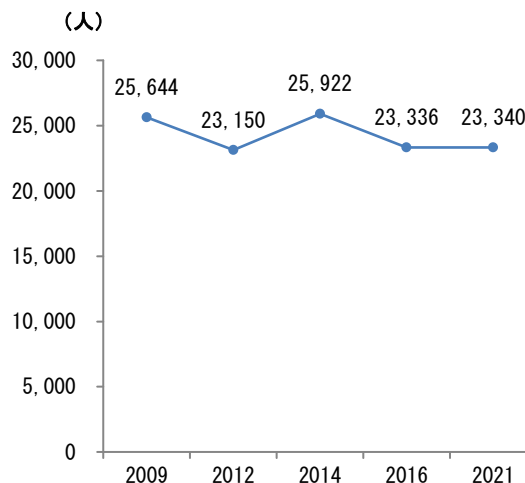
事業所数は、緩やかな減少傾向、従業者数は増減しながらも横這いで推移しています。事業所数が減少しながらも従業者が横這い傾向であることから、小規模な事業者が減少していると考えられます。

■事業所数・従業者数の推移

【事業所数】



【従業者数】



出典：総務省「経済センサス-活動調査」, 「経済センサス-基礎調査」を基に作成

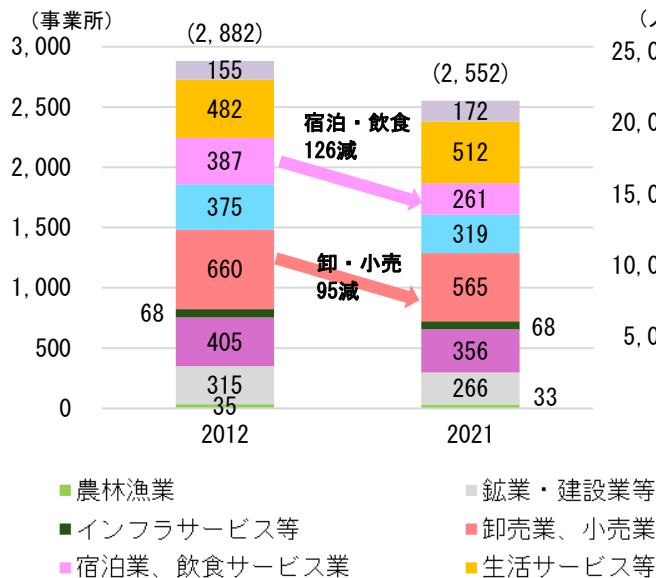
②産業別事業所数・従業者数

事業所は「宿泊業、飲食サービス業」と「卸売業、小売業」の減少が全体の減少の主な要因になっており、コロナ禍の影響で小規模な事業所が廃業したと考えられます。

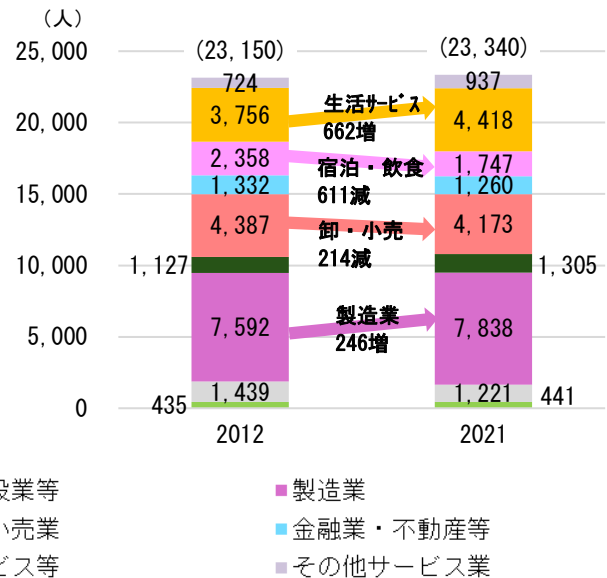
従業者数は「宿泊業、飲食サービス業」と「卸売業、小売業」が減少する一方、「製造業」と「生活サービス等」が増加しており、この業種を中心に雇用が維持され、全体として横ばいで推移したと考えられます。

■産業別事業所数・従業者数の推移

【事業所数】



【従業者数】



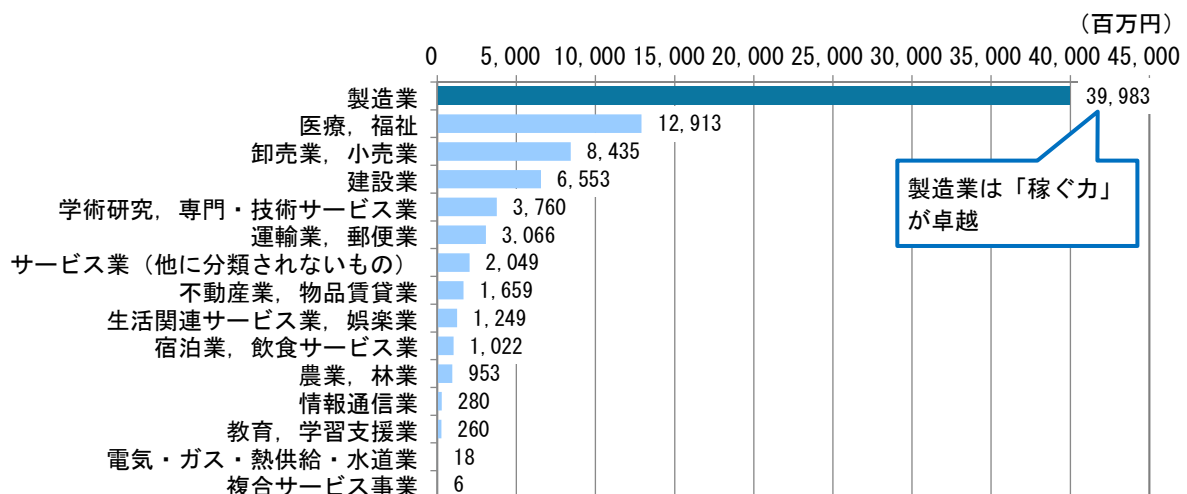
※鉱業・建設業等：「鉱業、採石業、砂利採取業」「建設業」、インフラサービス等：「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「運輸業、郵便業」、金融業・不動産等：「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」、生活サービス等：「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療、福祉」、その他サービス業：「複合サービス事業」「サービス業(他に分類されないもの)」「分類不詳」

出典：総務省「経済センサス-活動調査」を基に作成

③産業別付加価値額

産業別の付加価値額を見ると、製造業が約400億円と最も多く、卓越しています。製造業は、千曲市の産業構造の中で地域経済を担う重要な役割を果たしています。

■産業別付加価値額(2021年)



出典：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」のRESASによる再編加工を基に作成

④農業

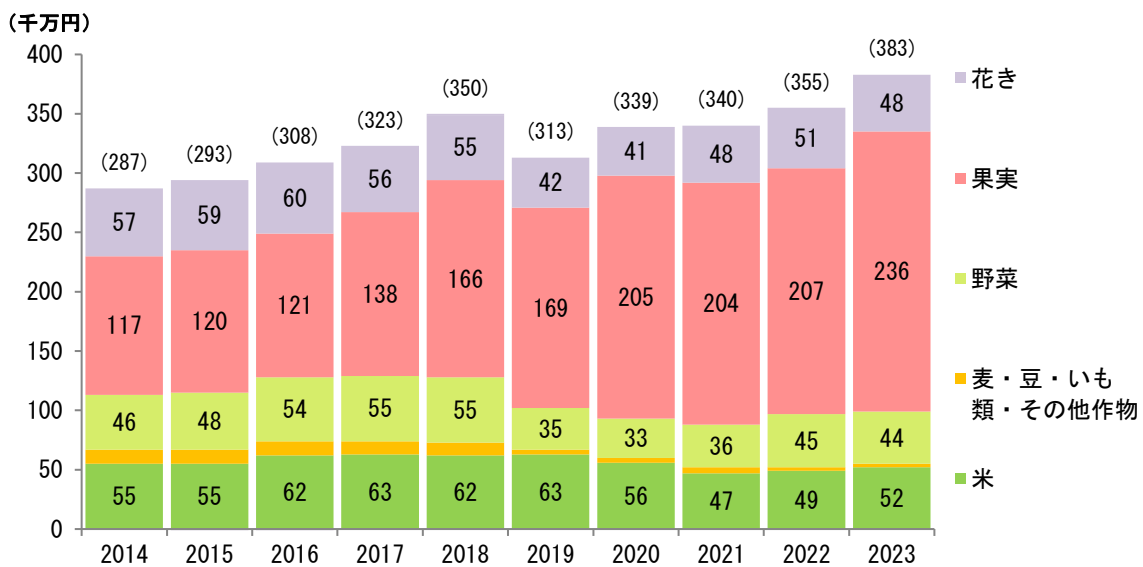
(農業産出額)

農業産出額の推移を見ると、増減はしながらも増加傾向で推移しており、2014年の約29億円から2023年には約38億円となっています。中でも果実の増加が寄与しており、2014年の約12億円から2023年には約24億円と2倍になっています。

2023年の果実の内訳を見ると、ぶどうが63%、りんごが27%となっており、この2つで90%を占め、特にぶどうは、近年、ワイン用ぶどうの栽培面積が増加しています。

千曲市の特産である「あんず」について長野県の栽培面積・出荷額の推移を見ると、栽培面積は減少傾向、出荷量は増減しながらも平均的に500 t 台で推移しており、千曲市でも同様の傾向と推察されます。

■農業産出額(耕種)の推移

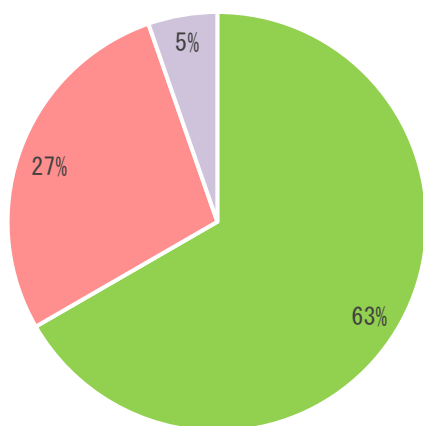


※1 () 内の数値は総数

※2 2019年以降の「花き」には「麦」「その他の作物」を含む(統計上、秘匿扱いになったため内訳が不明)

出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」を基に作成

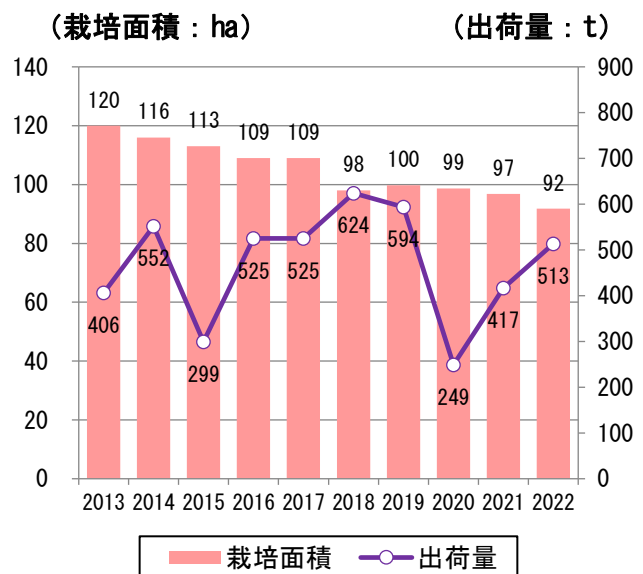
■果実の農業産出額の内訳(2023年)



※その他：西洋なし、もも、おうとう、うめ

■ぶどう ■りんご ■その他

■あんずの栽培面積・出荷額(長野県)の推移



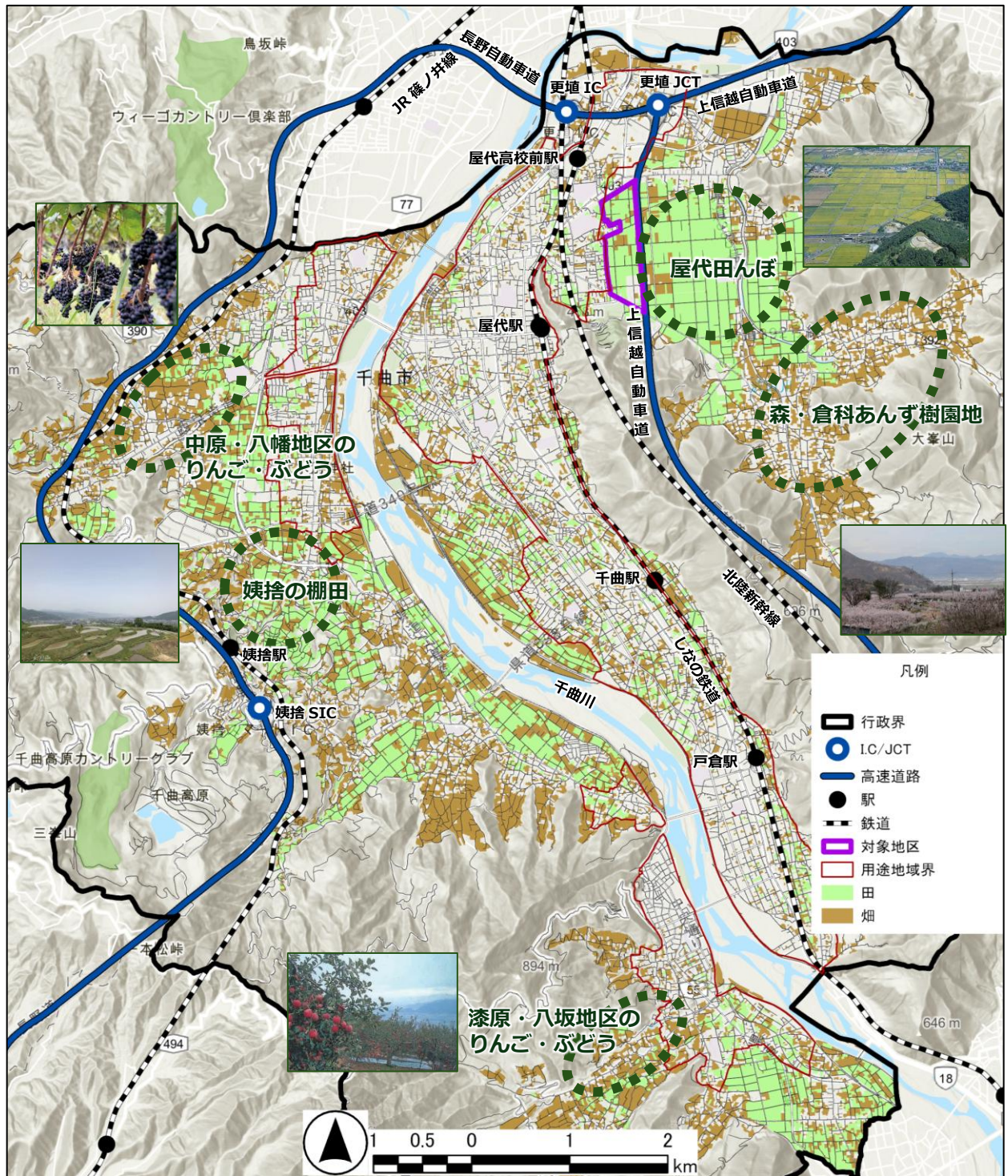
出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」を基に作成

出典：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」を基に作成

(農地分布)

対象地区の東側には「屋代たんぼ」と呼ばれる水田が広がっています。また、森・倉科地区の山裾では「あんず樹園地」があります。千曲川の西側では、全国で初めて棚田として国の名勝に指定された「姨捨の棚田（田毎の月）」があるほか、漆原・八坂地区に代表される扇状地ではりんご・ぶどうが栽培されています。

■農地の分布



※写真は、千曲市景観計画、市報千曲、千曲市HPより

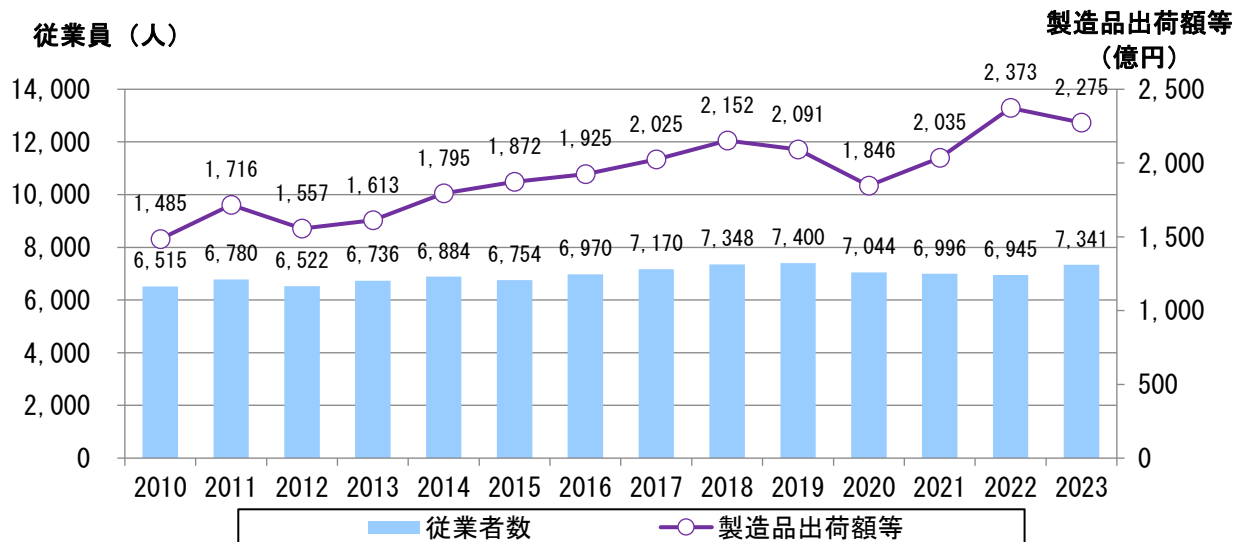
出典：「千曲都市計画基礎調査」(令和3年3月)を基に作成

⑤製造業

(従業者数と製造品出荷額等)

従業者数は2019年まで、製造品出荷額等は2018年まで緩やかな増加傾向で推移した後、減少に転じていましたが、製造品出荷額等は2021年から、従業者数は2023年から再び増加に転じています。また、製造品出荷額等の内訳では、主力（シェアが最大）である生産用機械器具製造業の増加が大きくなっています。

■製造業の従業者数と製造品出荷額等の推移

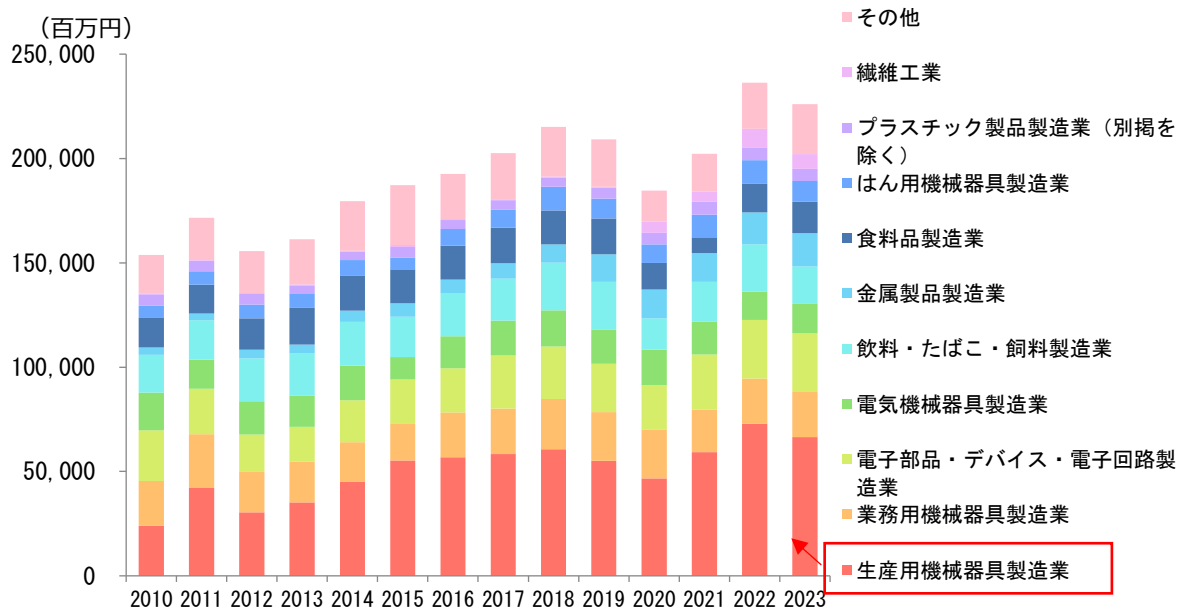


※従業者4人以上の事業所のみ

※平成27年の製造品出荷額等については、個人経営調査票による調査分を含まない

出典：経済産業省「工業統計調査」、2011年・2015年・2020年は総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」、2021年以降は経済産業省「経済構造実態調査」を基に作成

■産業中分類別の製造品出荷額等の推移



※従業者4人以上の事業所のみ

出典：RESAS 地域経済分析システムの公表データを基に加工・作成

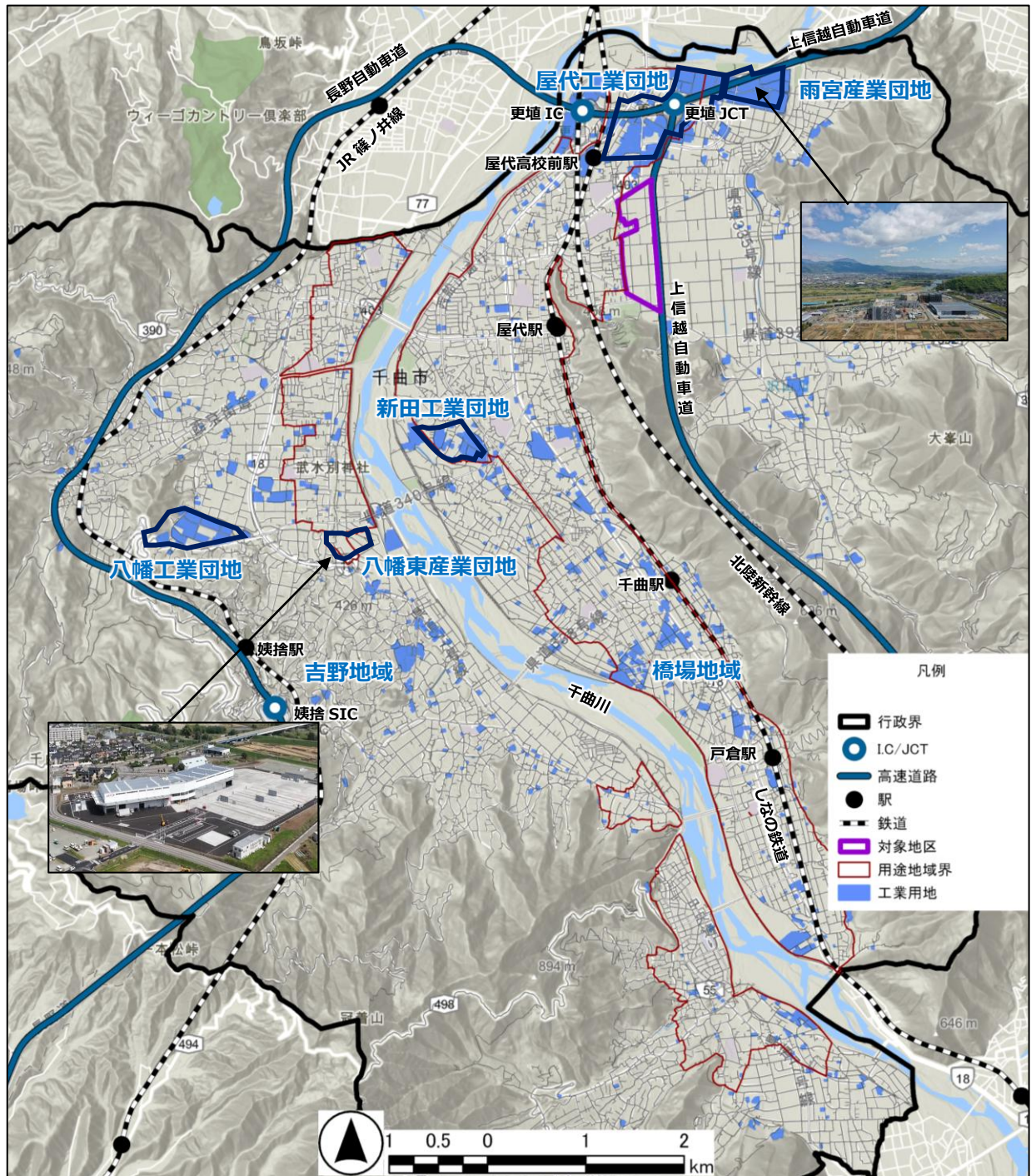
(経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工、経済産業省「経済構造実態調査」追加)

(工業用地分布)

市内には工業団地、産業団地が5つあるほか、吉野地域や橋場地域など産業集積地が分布しています。

- 八幡工業団地：プラスチック加工、医療機器、倉庫業等が立地
- 屋代工業団地：電子部品・デバイス・電子回路製造業や金属製品製造業、倉庫業等が立地
- 新田工業団地：業務用機械器具製造業や倉庫業等が立地
- 八幡東産業団地：建設機械レンタル企業の国内最大規模の新工場が立地
- 雨宮産業団地：半導体・電子・電気機器製造業等が立地

■土地利用現況における工業用地及び工業団地等の分布



※写真は、千曲市HPより

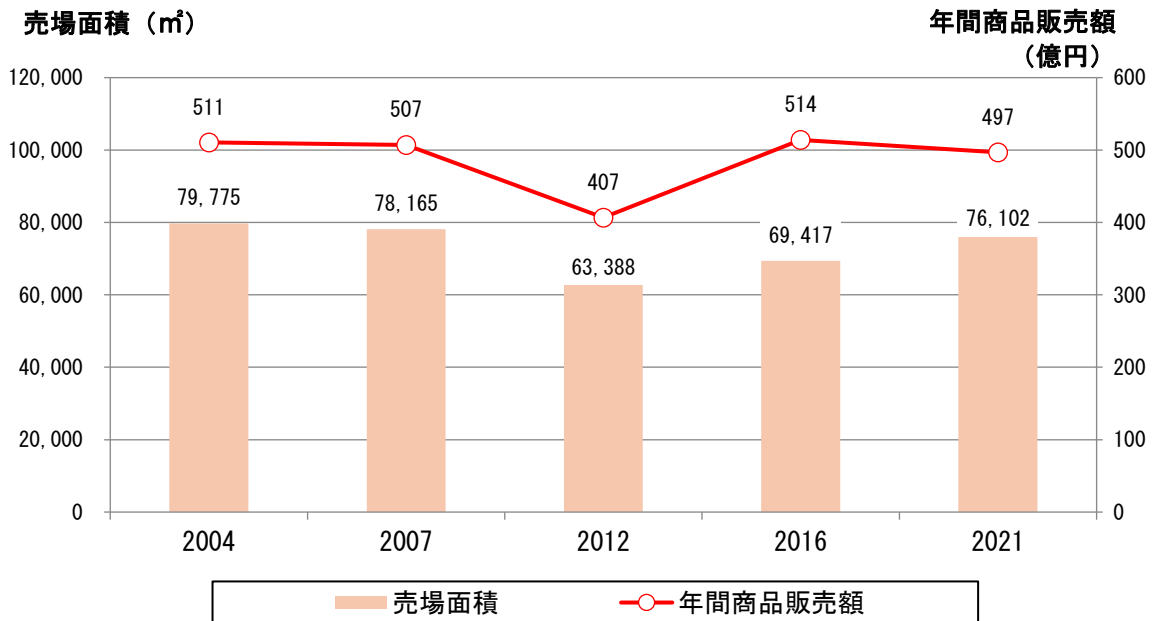
出典：「千曲都市計画基礎調査」(令和3年3月)を基に作成

⑥小売業

(売場面積と年間商品販売額)

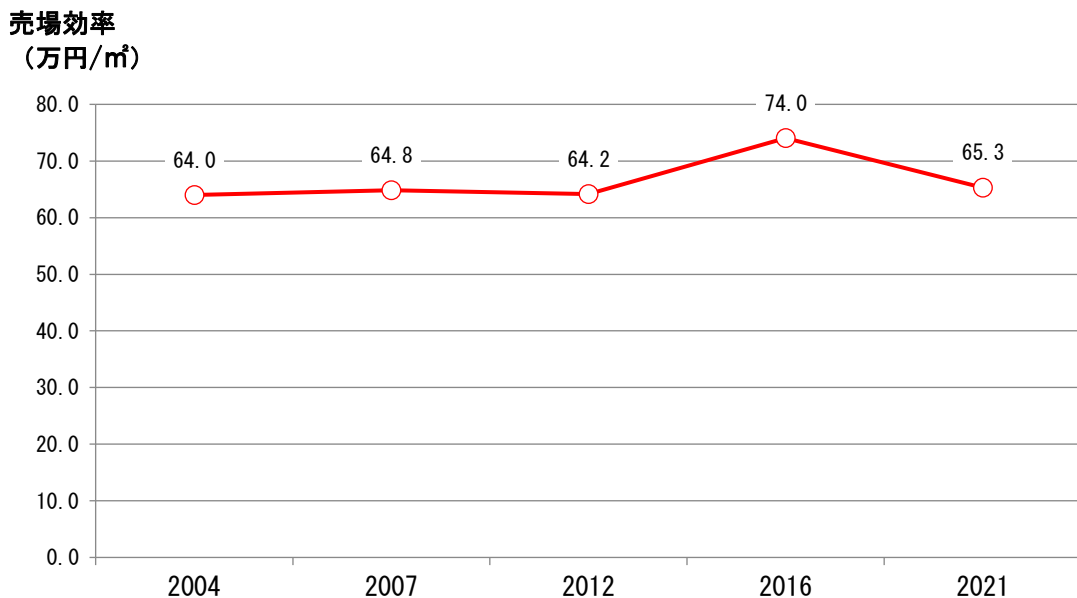
東日本大震災で日本経済全体が低迷した2011年を除くと、千曲市の売場面積は2016年まで微減傾向で推移していましたが、2016～2021年には増加に転じています。この間は「ホームプラザナフコ千曲店」や「ダイレックス千曲店」が立地しています。年間商品販売額は、2011年を除くと、500億円前後で推移しており、ほぼ横ばい傾向です。また、売場効率を見ると、2016年を除いて65万円前後で推移しており、店舗間での過当競争は生じていないと考えられます。

■売場面積と年間商品販売額の推移



出典：2004及び2007年は経済産業省「商業統計」、2012年以降は総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」を基に作成

■売場効率の推移



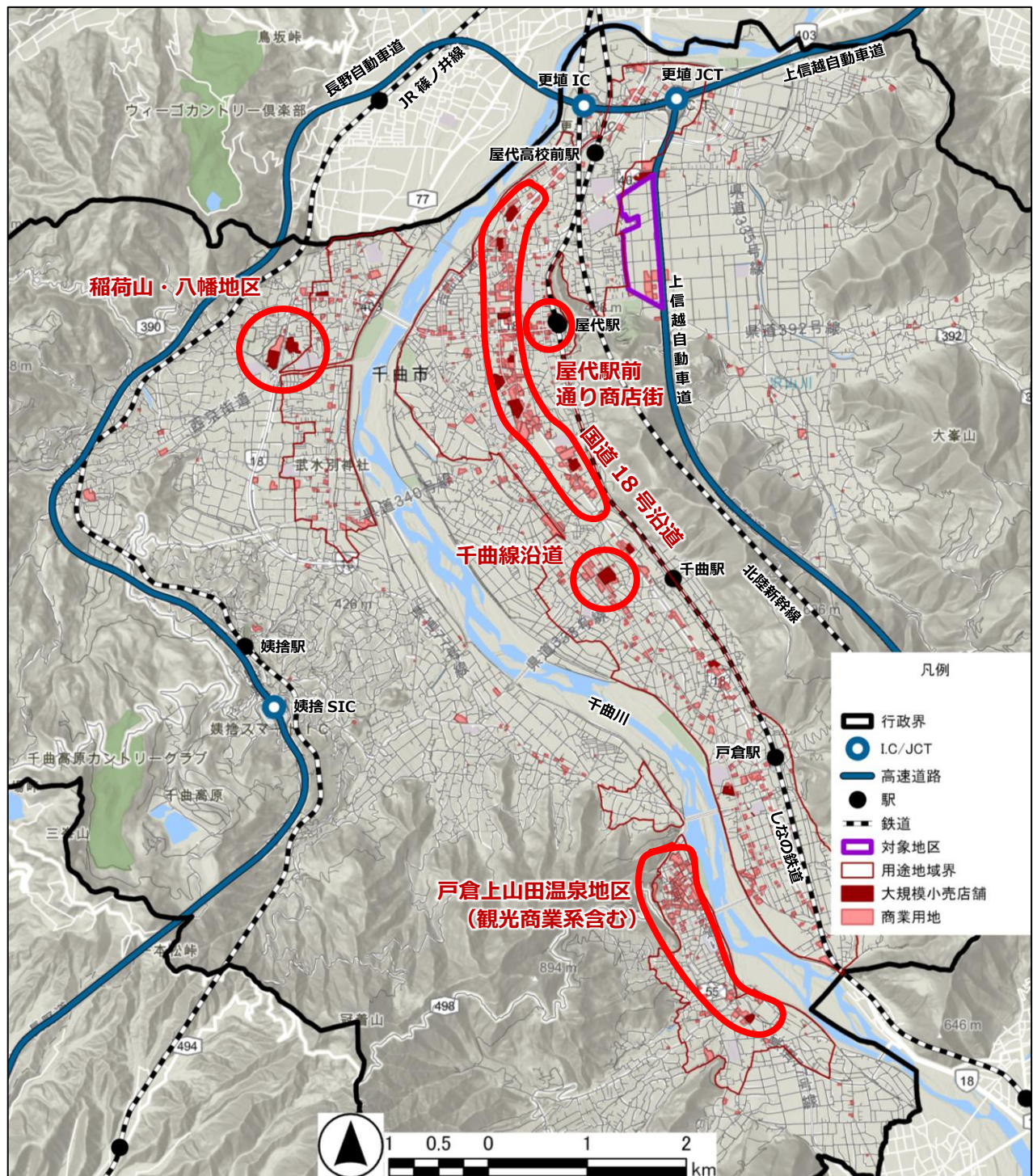
出典：2004及び2007年は経済産業省「商業統計」、2012年以降は総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」を基に作成

(商業用地・大規模小売店舗)

大規模小売店舗の分布を見ると、交通利便性を背景として、国道18号等の広域幹線道路沿道で立地する傾向があります。

また、商業用地も国道18号等の広域幹線道路沿道に集積が見られます。国道18号沿道以外では、屋代駅西側の商業集積（屋代駅前通り商店街）、稲荷山・八幡地区、千曲線沿道があるほか、戸倉上山田温泉地区では観光商業系の土地利用が集積しています。

■土地利用現況における商業用地・大規模小売店舗分布



出典：「千曲都市計画基礎調査」（令和3年3月）を基に作成

(商圈構造)

千曲市の商圈は旧更埴市を一次商圈として、旧戸倉町、旧上山田町等が二次商圈と同時に、旧更埴市は長野市（合併前）の一次商圈でもあります。

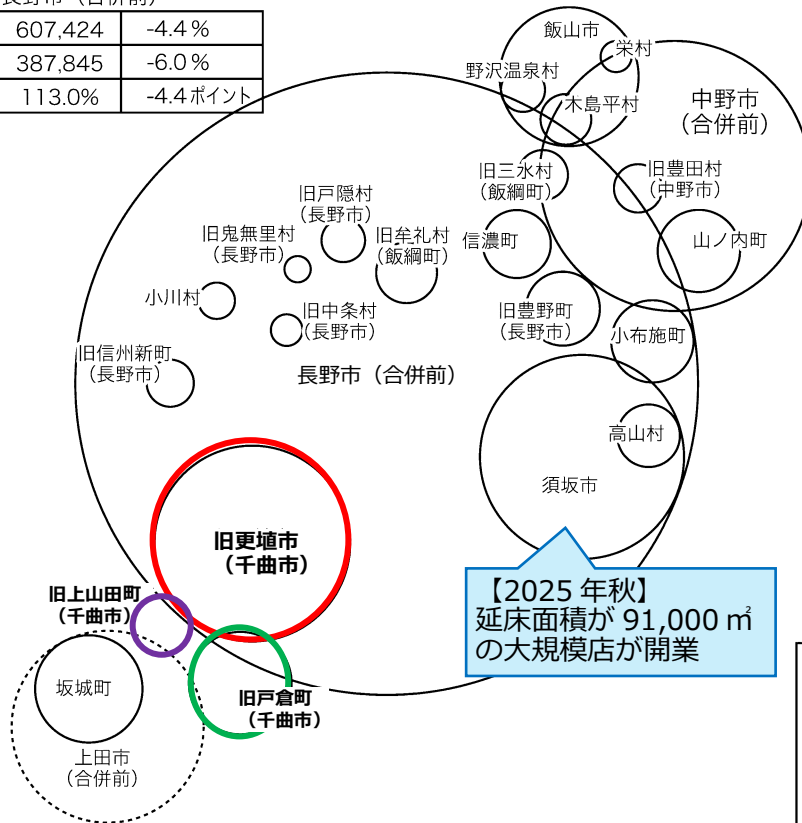
千曲市の商圈人口、吸引人口、吸引力係数[※]、地元滞留率は徐々に減少しながら縮小する傾向にあります。須坂市の商圈が大規模店の立地により今後拡大することが見込まれ、千曲市の商圈も購買力の流出など影響を受けることが考えられます。

※吸引力係数：居住人口に対する吸引人口の百分比であり、数値が大きいほど地元滞留率並びに他市町村からの流入人口の割合が高いことを示す。

■北信地区の商圈構造と商圈人口・地元滞留率・吸引人口

長野市（合併前）

607,424	-4.4%
387,845	-6.0%
113.0%	-4.4ポイント



飯山市

30,234	-6.0%
11,648	-11.6%
64.7%	-3.7ポイント

中野市（合併前）

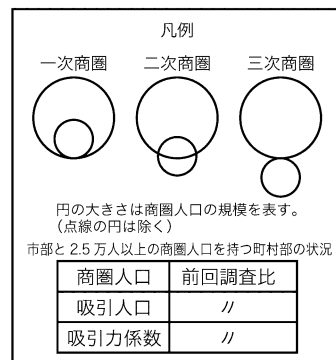
114,126	-2.6%
40,077	-8.7%
108.6%	-6.9ポイント

須坂市

65,269	-1.8%
23,164	-6.7%
47.8%	-2.5ポイント

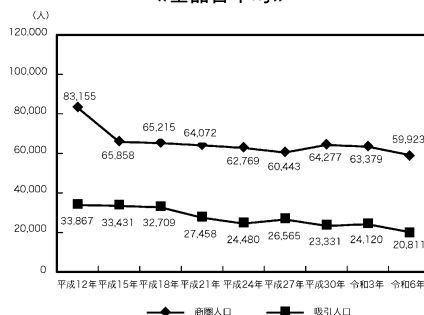
旧更埴市（千曲市）

59,923	-5.5%
20,811	-13.7%
58.4%	-8.1ポイント

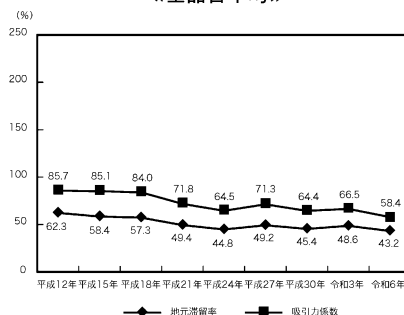


(注) 図表の制約上、一部に凡例と一致しない箇所がある。

商圈人口と吸引人口(旧更埴市(千曲市))
《全品目平均》



地元滞留率と吸引力係数(旧更埴市(千曲市))
《全品目平均》



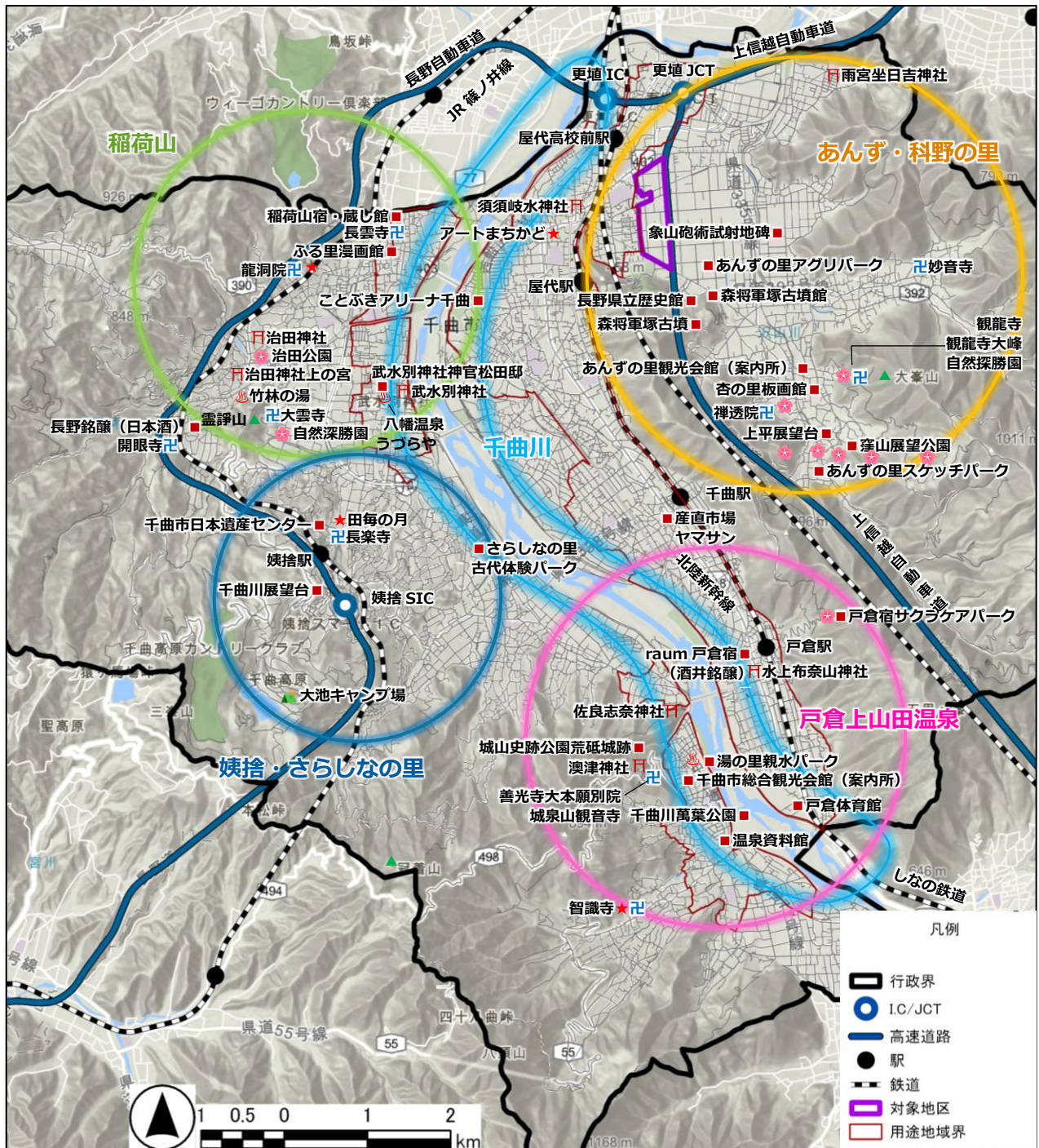
出典：「長野県商圈調査報告書」(令和6年度)を基に作成

⑦観光

(観光資源の分布)

千曲市の観光資源は、日本を代表する河川である「千曲川」、「日本一のおんずの里」と日本最大級の竪穴式石室を持つ「森將軍塚古墳」に象徴される「おんず・科野の里」エリア、「稲荷山重要伝統的建造物群保存地区」に象徴される「旧街道稲荷山」エリア、国の名勝・重要文化的景観・日本遺産である「姨捨棚田（田毎の月）」に象徴される「姨捨・さらしなの里」エリア、開湯120年を越える歴史をもつ温泉街に象徴される「戸倉上山田温泉」エリアの5つの魅力エリアがあります。

■観光資源分布



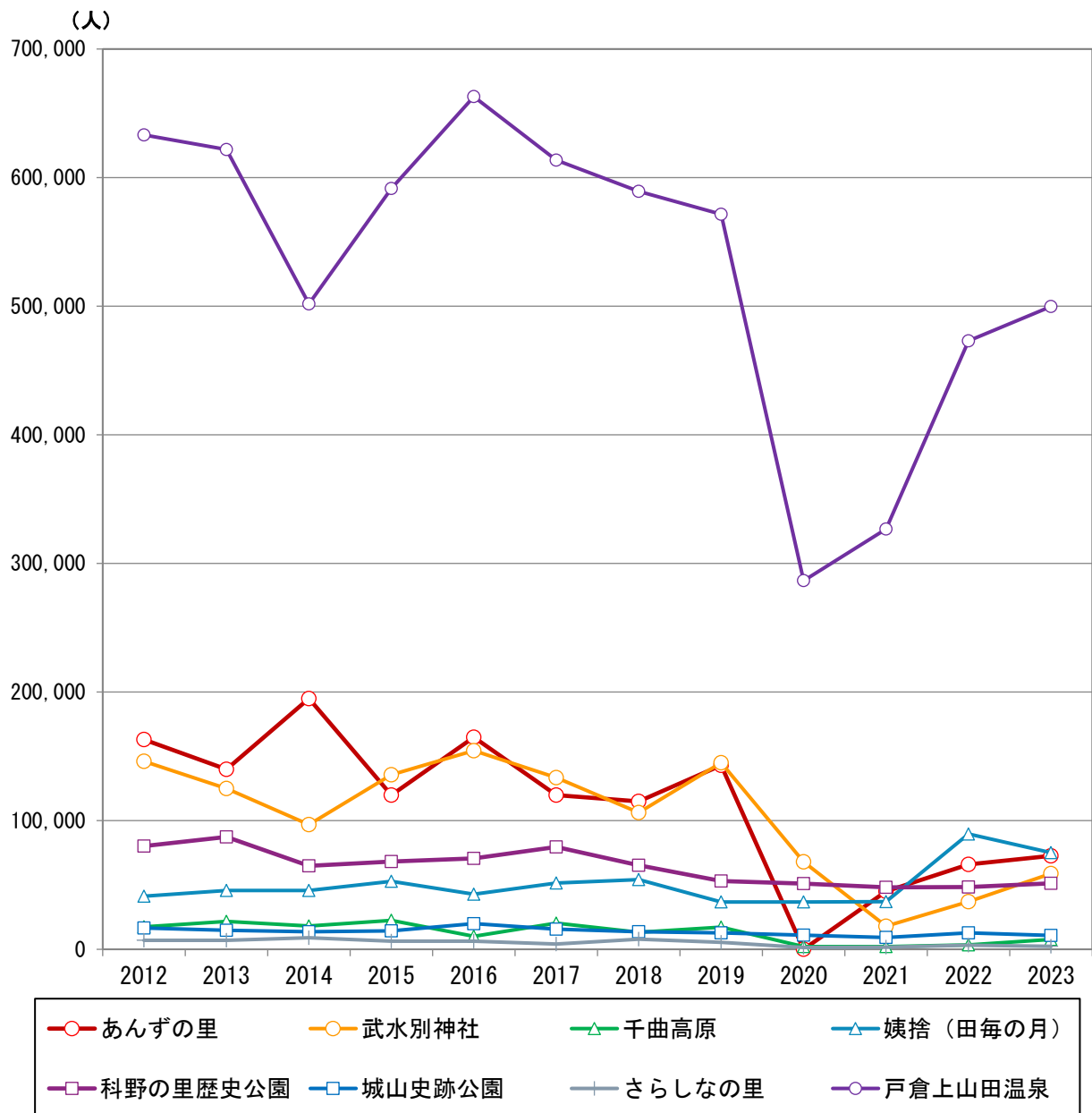
出典：信州千曲観光局のパンフレットを基に作成

(観光地利用者数)

地点別の観光地利用者数の推移をみると、2019年以前（コロナ禍前）は「戸倉上山田温泉」が60万人前後、「あんずの里」と「武水別神社」が概ね10万人以上、「科野の里歴史公園」が5万人以上、「姨捨（田毎の月）」が5万人前後で推移していましたが、2020年のコロナ禍は「戸倉上山田温泉」、「あんずの里」、「武水別神社」の利用者数に大きな影響を与えました。「戸倉上山田温泉」、「あんずの里」、「武水別神社」は、2023年においてもコロナ禍前の水準に戻っていない状況です。

一方、重要文化的景観や日本の棚田百選に選定されている「姨捨の棚田」は、2022年以降増加傾向にあり、コロナ禍前の水準を超える状況にあります。また、「科野の里歴史公園」は、コロナ禍から5万人前後で推移しており横ばい傾向となっています。

■施設・地域別の観光地利用者数の推移











※ 1 2020年は「あんずの里」の「あんずまつり」が中止

※ 2 戸倉上山田温泉は温泉入湯客数

出典：千曲市観光課資料を基に作成

■施設・地域の概要

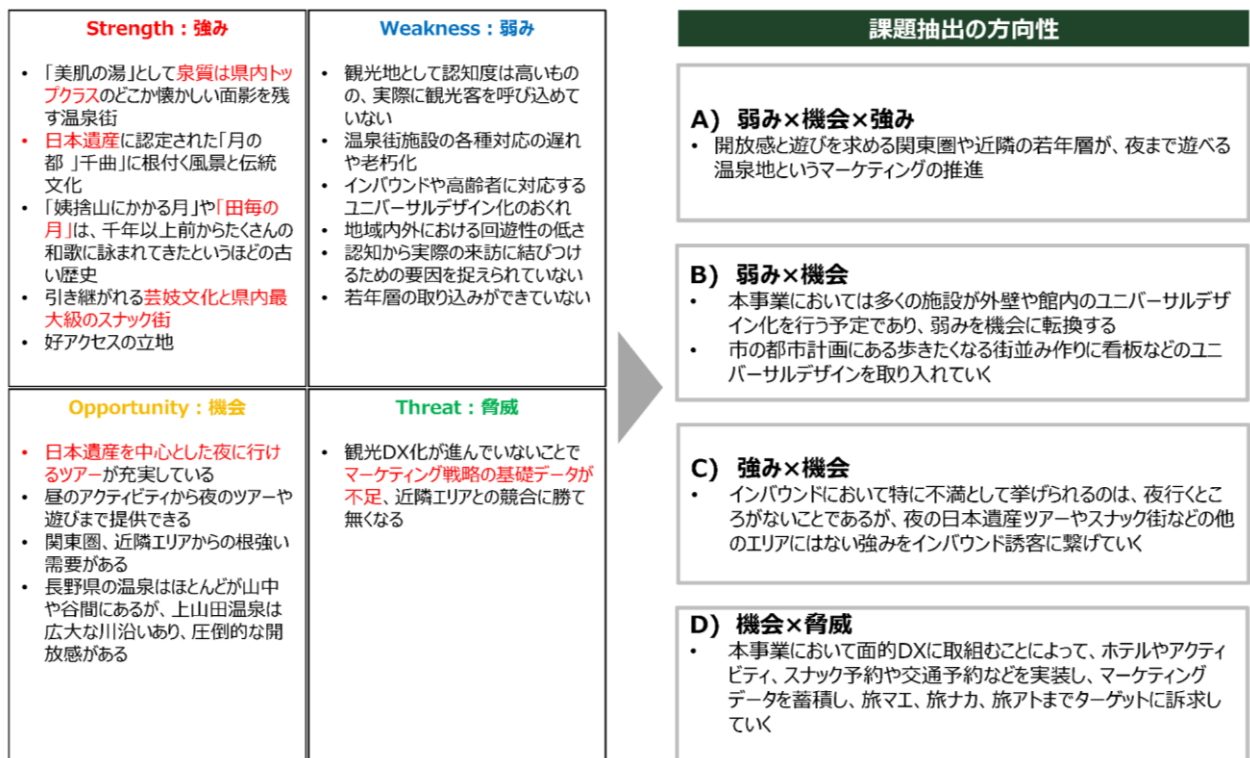
戸倉上山田温泉	善光寺に近く、古くから善光寺詣りの精進落とし湯として親しまれ、交通の便が良いことから、信州の旅のターミナルとして多くの人を訪れる。、昭和のイメージが残る温泉街でもある。7カ所の共同浴場があり、日帰り入浴を気軽に楽しめる。	
あんずの里	「一目十萬本」とうたわれる日本一のあんずの里。里山一面を薄紅色に染め上げ、展望台からは飯綱山など雪の残る美しい山々の景色も一緒に堪能でき、畑の中の小径を歩くと花を間近に感じられる花見の名所。	
武水別神社	善光寺平の五穀豊穰と千曲川の氾濫防止を祈って祀られた神社となっており、現在では交通安全祈願で有名。県の天然記念物に指定されている境内の古木や立川流の傑作とされている社殿の彫刻は見事。	
千曲高原	大池自然の家、大池キャンプ場、ゴルフ場などの施設があり緑に囲まれてやすらぎの時間が過ごせる。	
姨捨（田毎の月）	国の名勝姨捨（田毎の月）にも指定されている棚田は、約1,800枚からの田から成り立ち、季節ごとに様々な景色を見せる。また、古より月見の名所としても知られている。	
科野の里歴史公園	森將軍塚古墳、長野県立歴史館、千曲市森將軍塚古墳館などの施設一帯を歴史公園として整備。	
城山史跡公園	村上氏の支族である山田氏によって築城された山城。武田軍と上杉軍によって争奪戦が繰り広げられたことでも有名。連郭式山城を再現した公園で、大河ドラマなどのロケ地ともなっている。	
さらしなの里	さらしなの里古代体験パークは、縄文時代の集落を再現した歴史公園。公園内の歴史資料館には遺跡から発掘された縄文時代の土器などを展示。体験コーナーでは火おこしや飾り玉づくりなどが楽しめる。	

出典：「信州千曲観光局中長期観光計画&実績概要（2023年5月1日）」及び「GO NAGANO」を基に作成

（地域特性の分析）

信州千曲観光局「中長期観光計画&実績概要」（2023年5月1日）によると、「泉質は県内トップクラスのどこか懐かしい面影を残す温泉街」など地域の強みである一方、地域の弱みとして、「温泉街施設の各種対応の遅れや老朽化」、「地域内における回遊性の低さ」などが指摘されています。

■観光における地域特性分析



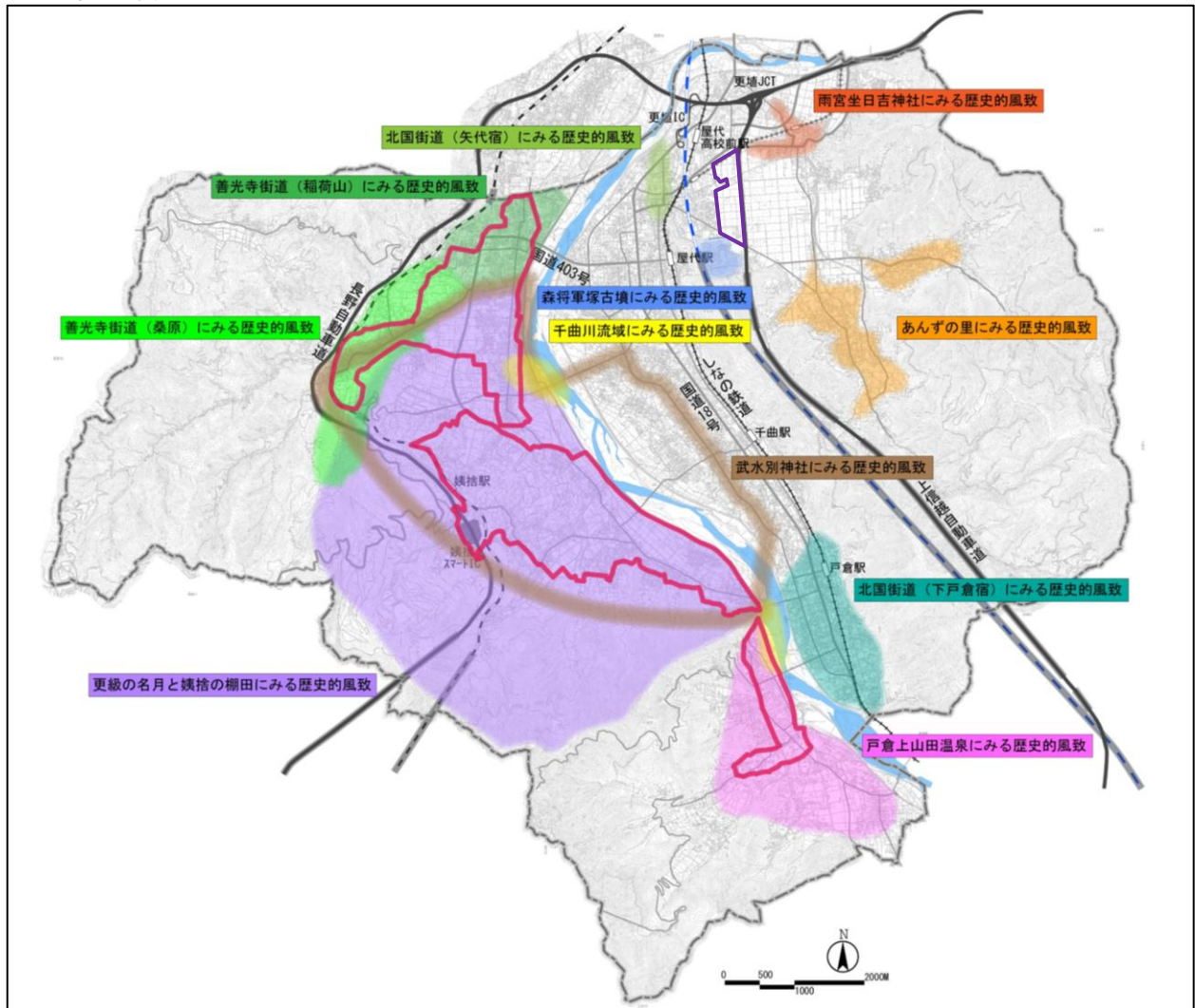
出典：信州千曲観光局「中長期観光計画&実績概要」（2023年5月1日）

(6) 歴史文化

「千曲市歴史的風致維持向上計画」（令和4年5月）によると、千曲市において維持向上を目指すべき歴史的風致は、千曲川左岸の川西地域を中心とする善光寺街道、武水別神社、更級の名月と姨捨の棚田、戸倉上山田温泉、川東地域の北国街道（矢代宿）、雨宮坐日吉神社、あんずの里、森將軍塚古墳、市内を中央に北流する千曲川の9つの要素が挙げられています。

対象地区は、北国街道（矢代宿）、雨宮坐日吉神社、あんずの里、森將軍塚古墳といった歴史的風致に囲まれた場所に位置しています。

■ 歴史的風致位置図



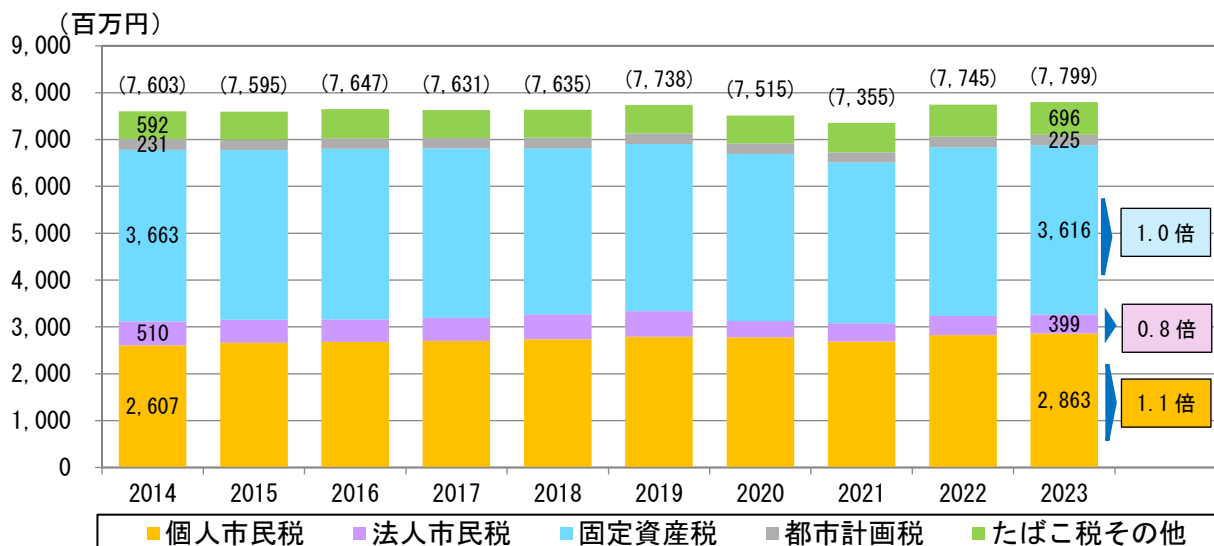
出典：千曲市歴史的風致維持向上計画（令和4年5月）

(7) 財政

① 市税収入

千曲市の市税収入の推移を見ると、コロナ禍の時期を除いて、微増で推移しており、2023年度は約78億円（過去10年間で1.03倍）となっています。内訳を見ると個人市民税が1.1倍となっており、子育て世代を中心とした転入超過の傾向が背景にあると考えられます。一方、法人市民税は0.8倍であり、コロナ禍での減少から回復途上です。また、市税の中で最も割合の高い固定資産税は横ばいとなっています。

■ 市税収入額の推移

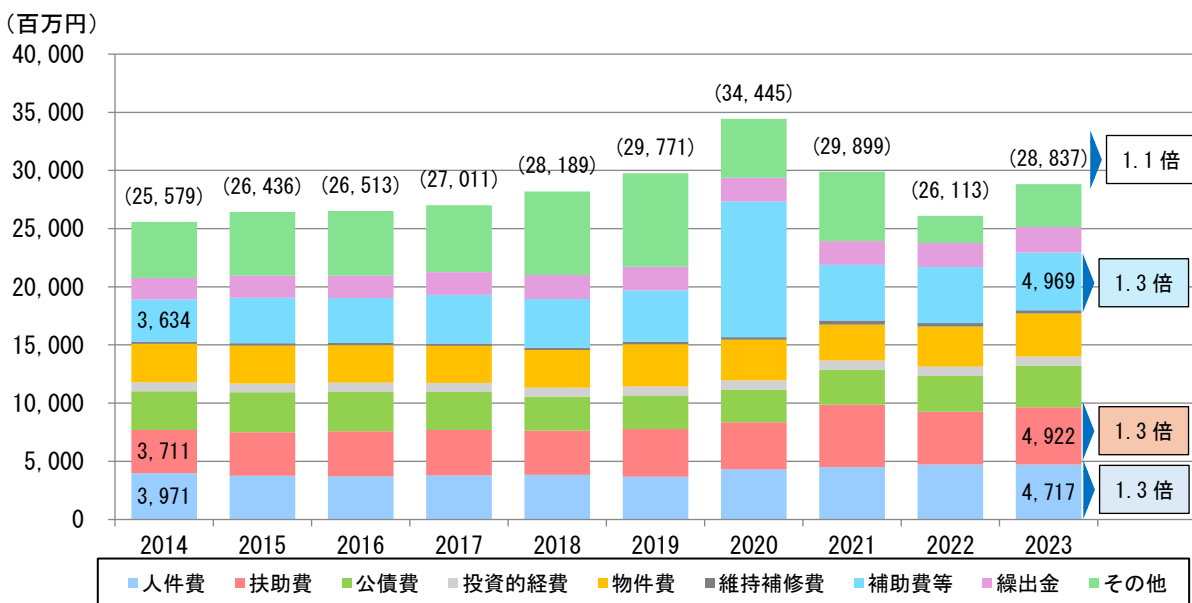


出典：総務省「市町村別決算状況調」を基に作成

② 性質別歳出額

千曲市の性質別歳出額の推移を見ると、コロナ禍の時期を除いて、微増で推移しており、2023年度は約288億円（過去10年間で1.1倍）となっています。内訳を見ると人件費・扶助費・補助費等が1.3倍となっています。扶助費は人口構造の高齢化によって今後も自然増が見込まれます。

■ 性質別歳出額の推移



出典：「千曲市統計書」を基に作成

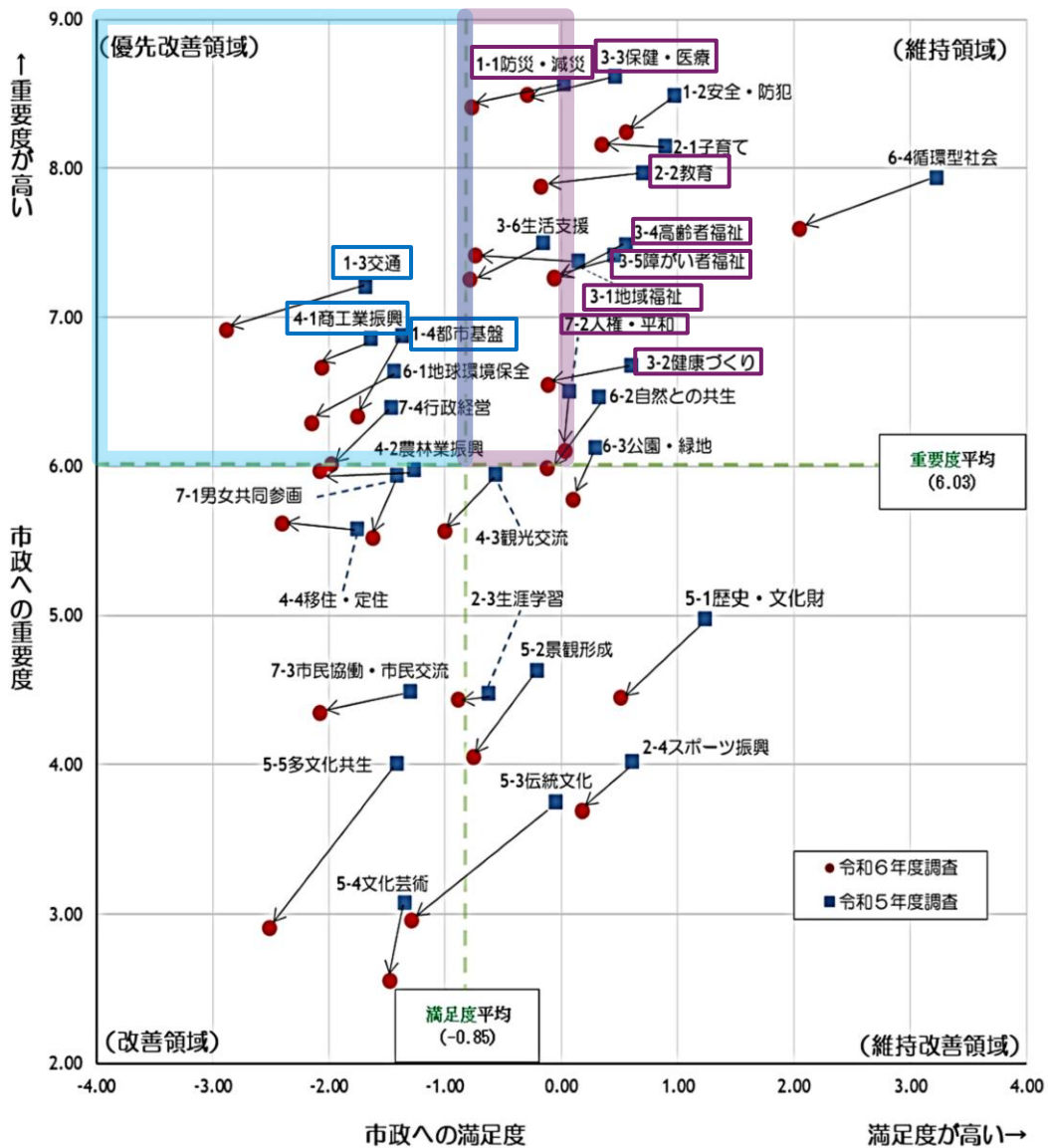
(8) 市民意識

1) 施策に対する評価

「令和6年度市民意識調査」では、「千曲市総合計画」に掲げた31項目の達成方針に対する市民の評価（満足度と重要度）を調査しています。

重要度が平均以上、満足度が平均以下となっている領域を重点的な取組が必要な領域と捉えた場合、「交通」、「商工業振興」、「都市基盤」といった屋代SIC周辺地区のまちづくりに関連する項目が含まれています。また、重要度が平均以上、満足度がマイナスとなっている領域を重点的な取組が必要な領域と捉えた場合、「防災・減災」や「保健・医療」、「教育」、「生活支援」、「高齢者福祉」、「障がい者福祉」、「地域福祉」、「健康づくり」、「人権・平和」といった施策が含まれてきます。「防災・減災」は、屋代SIC周辺地区のまちづくりにおいて重要なテーマになると考えられます。また、教育・福祉・健康等のソフト施策も屋代SIC周辺地区のまちづくりを考える上で重要な視点になると考えられます。

■ 市政への満足度と重要度の相関図（令和5年度との比較）

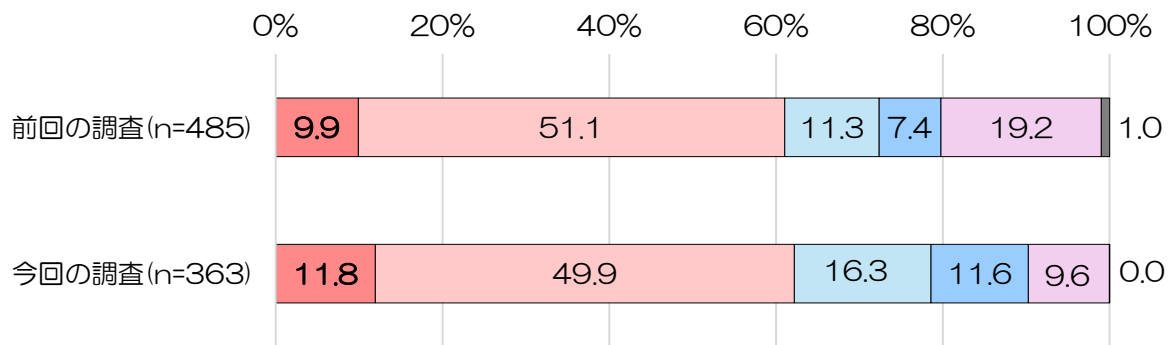


出典：令和6年度「市民意識調査」集計・分析結果報告書

2) 子育て環境に対する評価

「千曲市 こども計画策定のためのニーズ調査集計結果（令和7年3月）」では、千曲市は子育てしやすい環境かとたずねたところ（就学前児童保護者のみ）、「どちらかといえばそう思わない」が5.0%増加、「そう思わない」が4.2%増加と、不満を持っている人の割合が増えています。一方、「そう思う」も1.9%増加しており、人によって子育て環境に対する評価が異なるなど、二極化している可能性もあります。

■千曲市の子育て環境（就学前児童保護者）



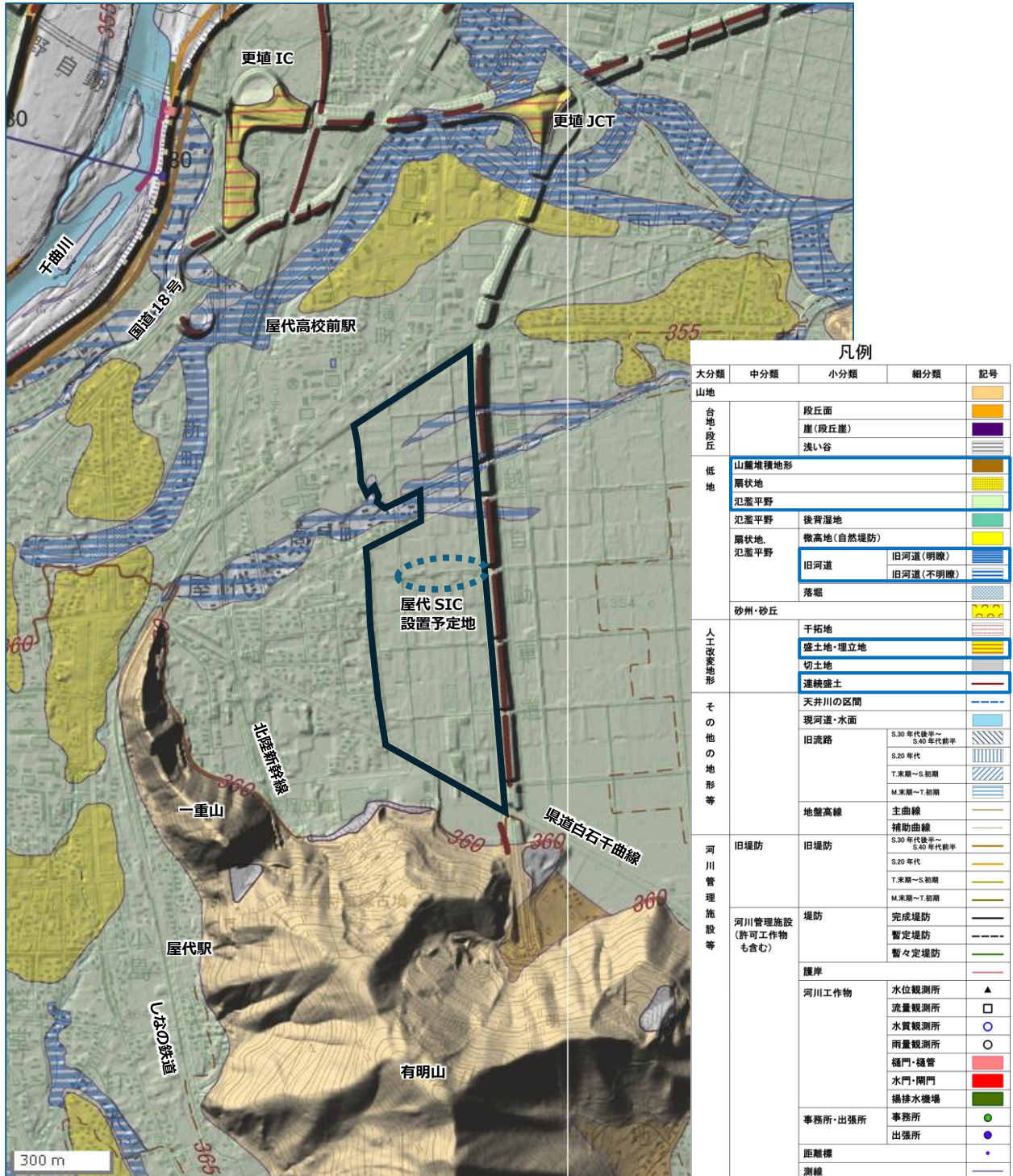
出典：こども計画策定のためのニーズ調査集計結果（令和7年3月）

2 屋代SIC周辺地区の概況の整理・分析

(1) 地形

屋代SIC周辺地区は、千曲川沿いの氾濫平野（河川が繰り返し氾濫して土砂を堆積させて形成された平野）に位置し、平坦な地形となっています。また、南側には一重山と有明山が位置しています。このほか、旧河道や微高地（自然堤防）が分布しています。

■ 治水地形



出典：国土地理院「治水地形分類図」

(2) 土地利用

①対象地区

現状は農地であり、地区の南端に観光施設の「あんずの里物産館」や「あんずの里アグリパーク」が立地しています。

②対象地区周辺

対象地区周辺の土地利用を方面別に見ると、工業、農業、自然、住宅・商業等の異なる土地利用に囲まれています。

- ・北側：更埴IC・更埴JCT周辺では、工業/産業団地を中心とした工業系土地利用が中心
- ・東側：水田を中心とした土地利用が広がり、山裾に集落（住宅用地）が形成
- ・南側：長野県立歴史館が立地しているほか、有明山の尾根の先端に森將軍塚古墳が所在
- ・西側：住宅主体の市街地で、屋代駅周辺は商店街、国道18号沿いは商業系土地利用が中心

③人口集中地区

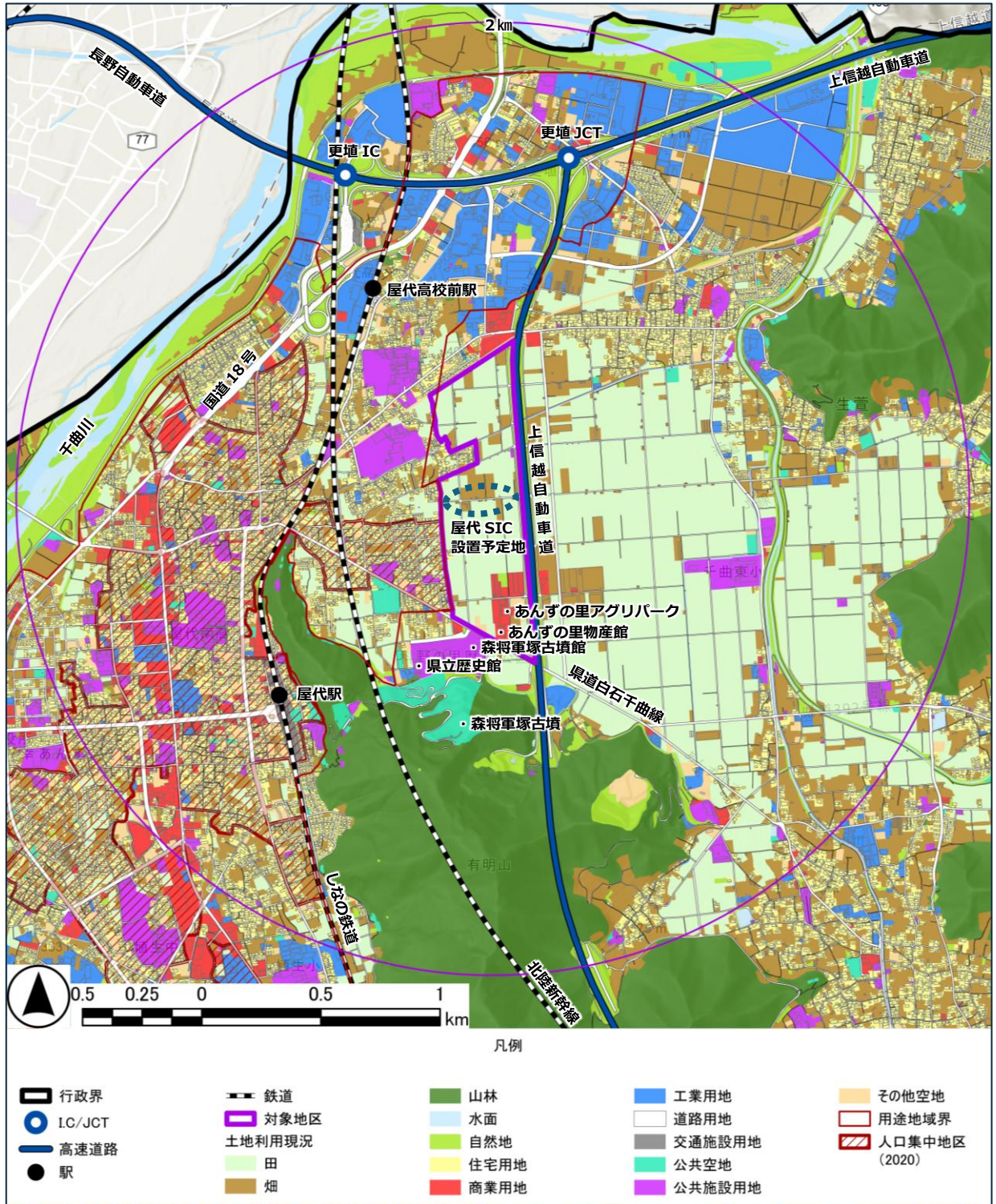
しなの鉄道西側は旧更埴市の中心拠点であり、人口集中地区（市街地の目安：概ね40人/ha以上）となっているほか、しなの鉄道東側では「県道白石千曲線」沿いが人口集中地区となっています。人口集中地区以外の用途地域内は住宅と農地が混在する土地利用となっています。

■対象地区の現状（森將軍塚古墳より北を望む）



出典：（仮称）屋代スマートインターチェンジの概要について（上空写真）

■土地利用現況



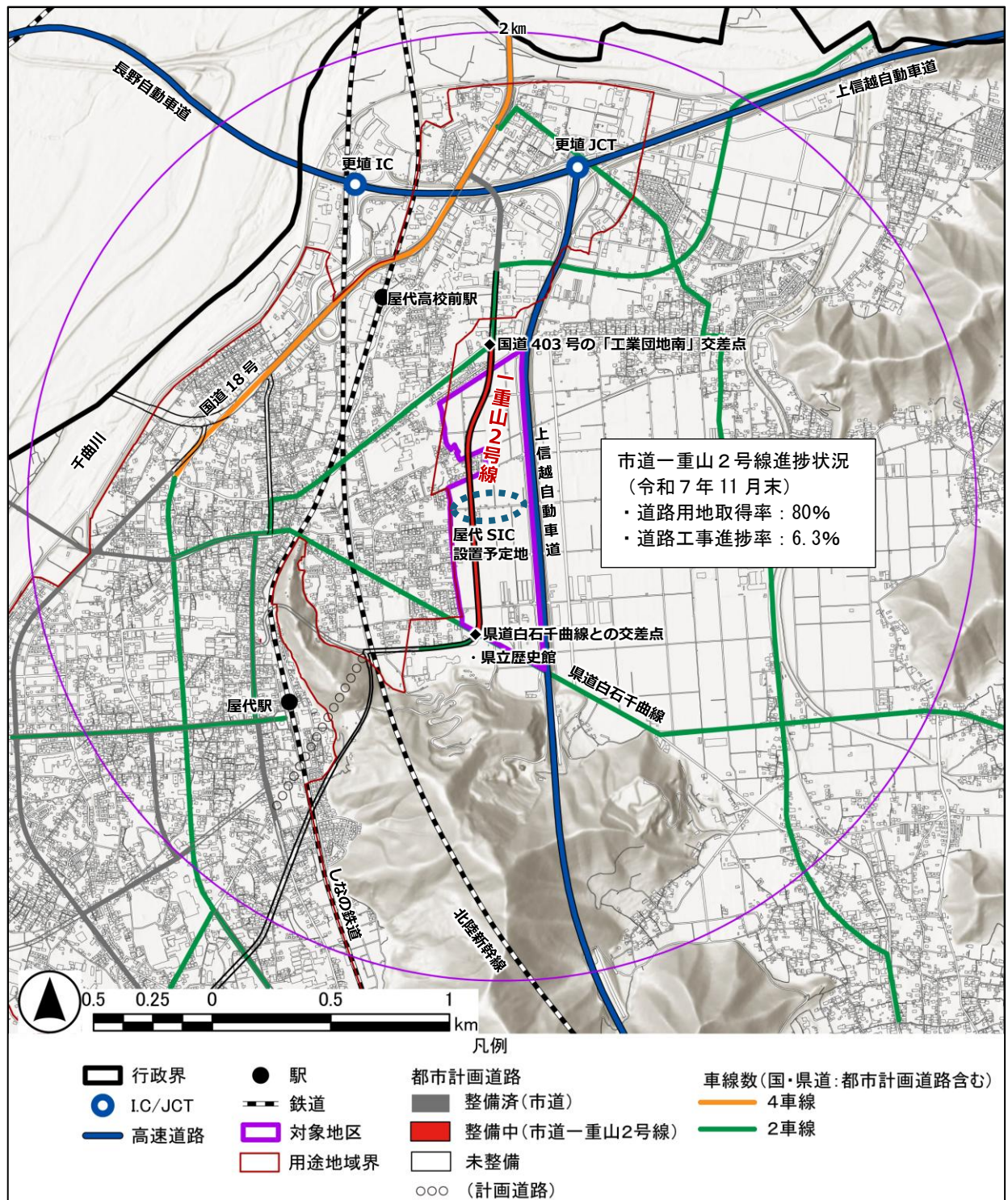
出典：「千曲都市計画基礎調査」(令和3年3月)を基に作成

(3) 道路交通

① 道路の整備状況

屋代SICの接続道路として、令和2年度から市道一重山2号線の整備に着手しています（目標：令和11年3月までの開通）。整備区間は、国道403号の「工業団地南」交差点から県道白石千曲線との交差点（県立歴史館付近）までの約1.4キロメートルで、道路幅は20mの計画となっています。中期的には一重山を抜けて、しなの鉄道西側の市街地に連絡することとなります。

■ 都市計画道路の整備状況



出典：「千曲都市計画基礎調査」（令和3年3月）及び都市計画道路GISデータを基に作成

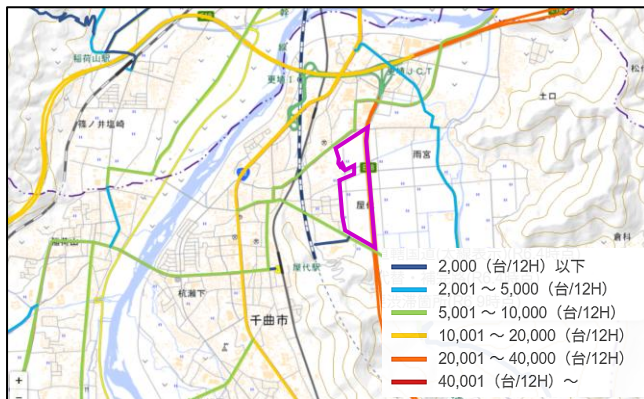
②自動車交通量 (国県道)

屋代SICが設置される上信越自動車道は12時間交通量が2～4万台となっています。また、南北方向の幹線道路である国道18号は12時交通量が1～2万台であり、混雑度は1超の区間があります。

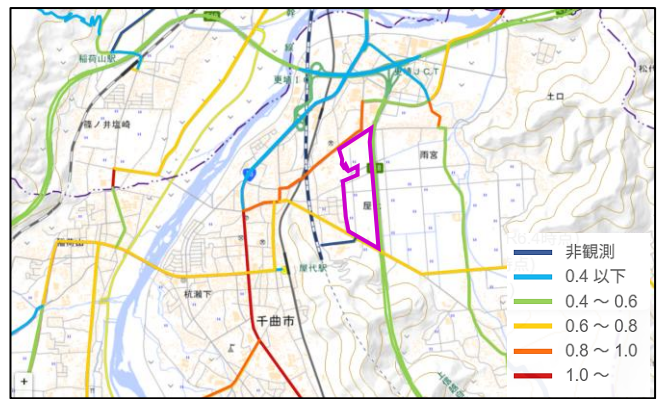
朝夕の旅行速度は、東西方向において20km/時未満となっており、屋代駅前通りでは10km/時未満となっています。昼間は朝夕より混雑が緩和されるものの、屋代駅前通りをはじめ、東西方向では20km/時未満の区間が見られます。

■自動車交通の状況

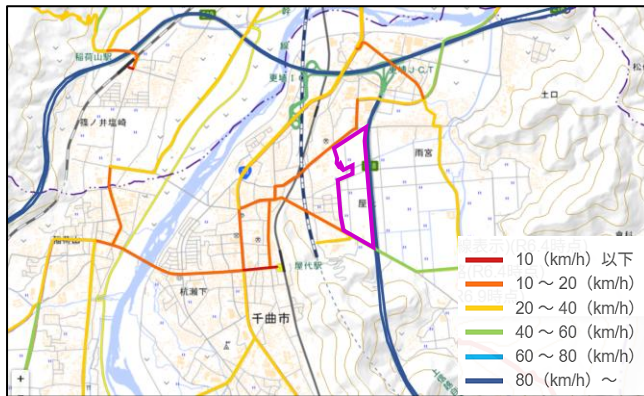
【昼間12時間交通量】



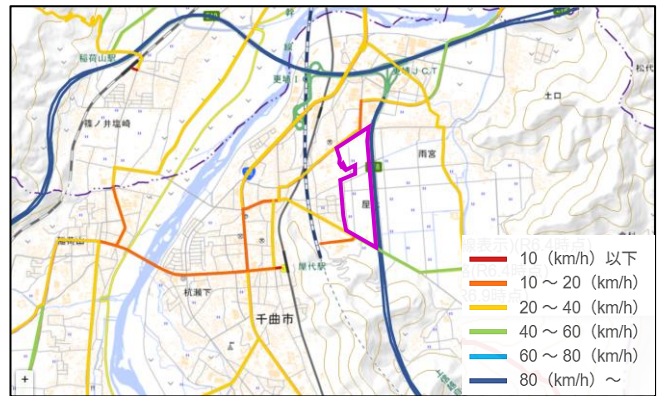
【混雑度】



【朝夕旅行速度(上り・下りのうち遅い方)】



【昼間旅行速度(朝夕旅行速度と同一方向)】



出典：国土交通省「令和3年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果WEBマップ」

(令和7年度の交通量調査結果)

令和7年10月に実施された交通量調査結果によると、現況の交通量は、国道18号に位置する①粟佐北交差点、②屋代工業団地交差点が5万台/日以上と多く、次いで⑦横町交差点が約2万台/日となっています。また、平日は交差点①～④の大型車混入率が高く、工業団地へ向けた物流等の利用が考えられます。平日はピーク時が7時台と17時台となっており、通勤通学による交通集中が考えられます。一方、休日はピーク時が11時台～16時台となっており、日常的な交通移動が中心と考えられます。

渋滞長調査結果では、横町交差点（東側）の流入部Dにおいて、休日は定常的に20～60m程度の渋滞が発生しています。原因は、一度の青信号で通過できる車両が3～4台程度となるため、信号現示の短さが要因の一つと考えられます。また、流入部Fでは、平日7時台に最大370mの渋滞が発生しています（同様の渋滞は平日15時台、16時台で発生）。休日は渋滞が発生しておらず、右折車両の発生時に滞留が発生しています。

■ 交差点での交通量調査結果の概要

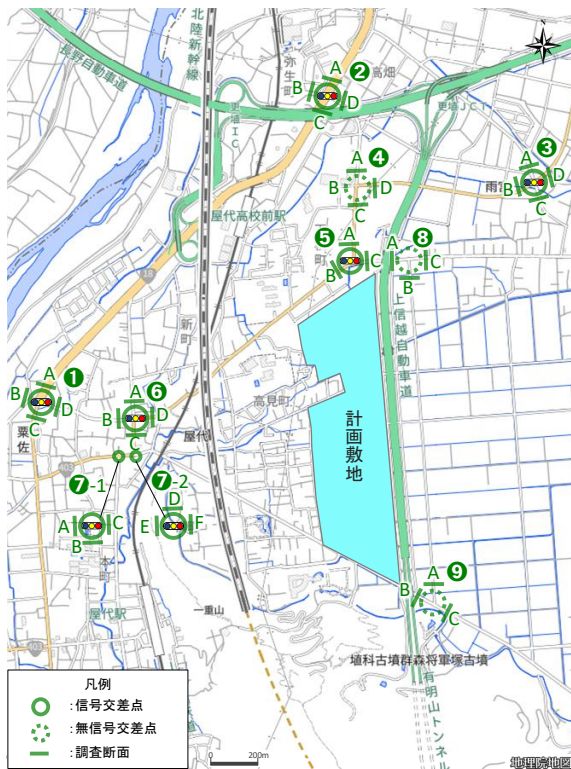


図 交通量調査地点図

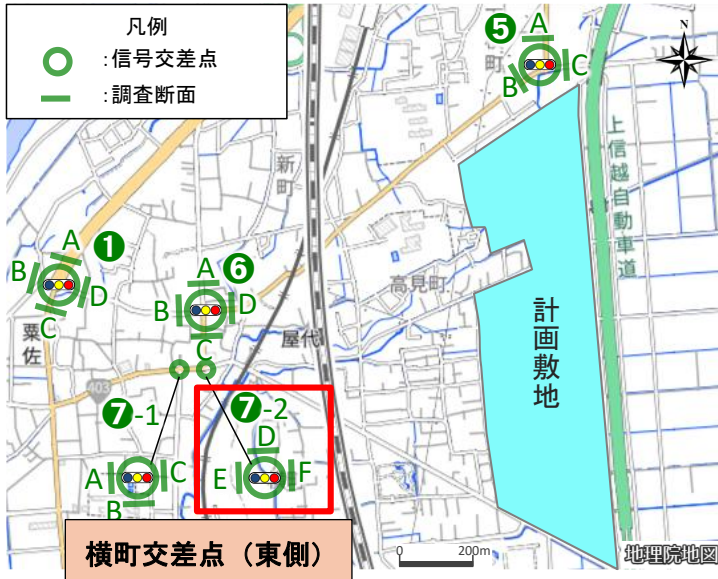
表 各交差点・各断面の自動車交通量【平日】

交差点番号	交差点名	12時間		ピーク時			
		交通量	大型車混入率	交通量	ピーク時間帯	大型車混入率	ピーク率
		(台/12h)	(%)	(台/1h)		(%)	(%)
①	粟佐北	52,178	10.9%	5044	7時台	7.8%	9.7%
②	屋代工業団地	61,494	12.8%	6612	7時台	9.3%	10.8%
③	雨宮の渡し入り口	14,610	8.2%	1926	7時台	5.3%	13.2%
④	国道403号、一重山線	15,148	9.5%	1836	7時台	5.3%	12.1%
⑤	工業団地南	17,500	4.4%	1974	7時台	2.5%	11.3%
⑥	高見	17,718	3.5%	2058	17時台	1.1%	11.6%
⑦(1)	横町	21,578	3.2%	2350	17時台	1.1%	10.9%
⑦(2)	横町	10,963	3.7%	1166	17時台	1.2%	10.6%
⑧	市道4269号、市道4268号	6,750	4.5%	753	17時台	1.3%	11.2%
⑨	白石千曲線、市道4268号	9,312	4.3%	1072	7時台	1.5%	11.5%

表 各交差点・各断面の自動車交通量【休日】

交差点番号	交差点名	12時間		ピーク時			
		交通量	大型車混入率	交通量	ピーク時間帯	大型車混入率	ピーク率
		(台/12h)	(%)	(台/1h)		(%)	(%)
①	粟佐北	48,812	2.6%	4912	14時台	2.2%	10.1%
②	屋代工業団地	58,466	4.1%	5634	16時台	4.0%	9.6%
③	雨宮の渡し入り口	10,810	2.4%	1098	16時台	1.8%	10.2%
④	国道403号、一重山線	10,928	2.9%	1082	11時台	3.0%	9.9%
⑤	工業団地南	13,610	1.3%	1436	11時台	1.1%	10.6%
⑥	高見	14,096	0.9%	1466	11時台	0.4%	10.4%
⑦(1)	横町	17,284	0.6%	1868	11時台	0.1%	10.8%
⑦(2)	横町	16,972	0.6%	1806	11時台	0.1%	1.9%
⑧	市道4269号、市道4268号	6,710	1.7%	728	16時台	1.4%	10.8%
⑨	白石千曲線、市道4268号	7,104	0.7%	798	11時台	0.5%	11.2%

■横町交差点（東側）での渋滞長の状況

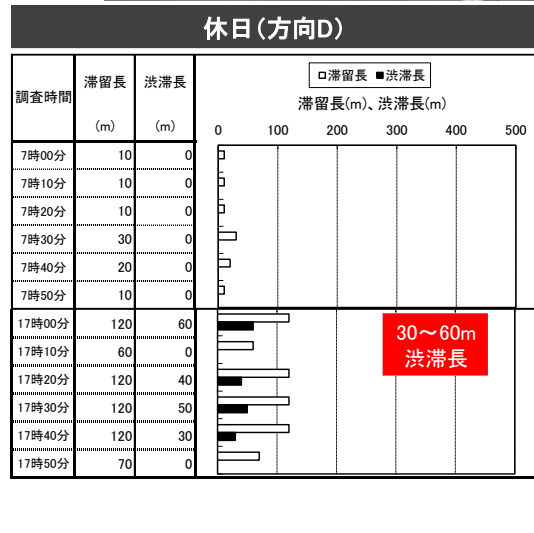
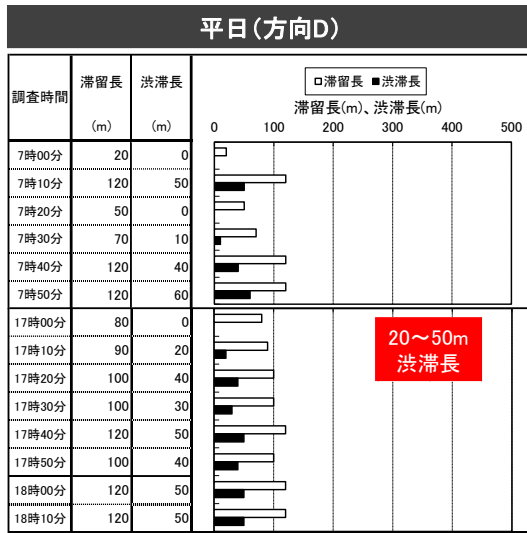


方向D：一度のサイクルで3~4台が通行可

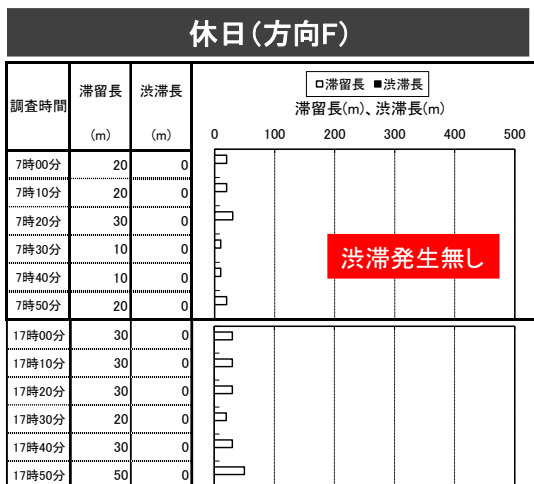
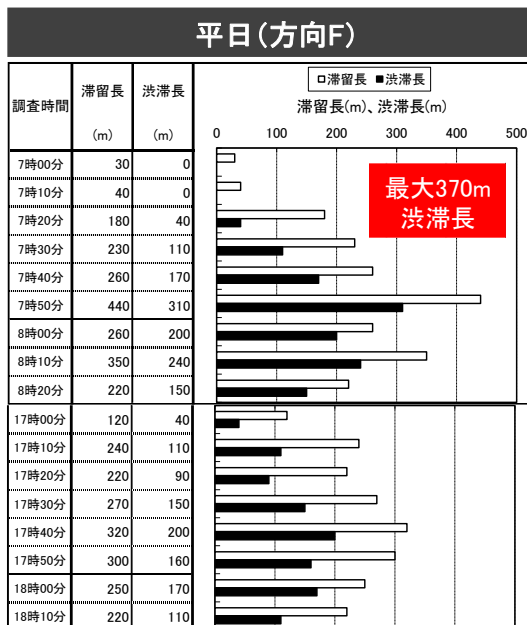


方向F：平日は新幹線の位置まで

【方向Dの渋滞発生状況】



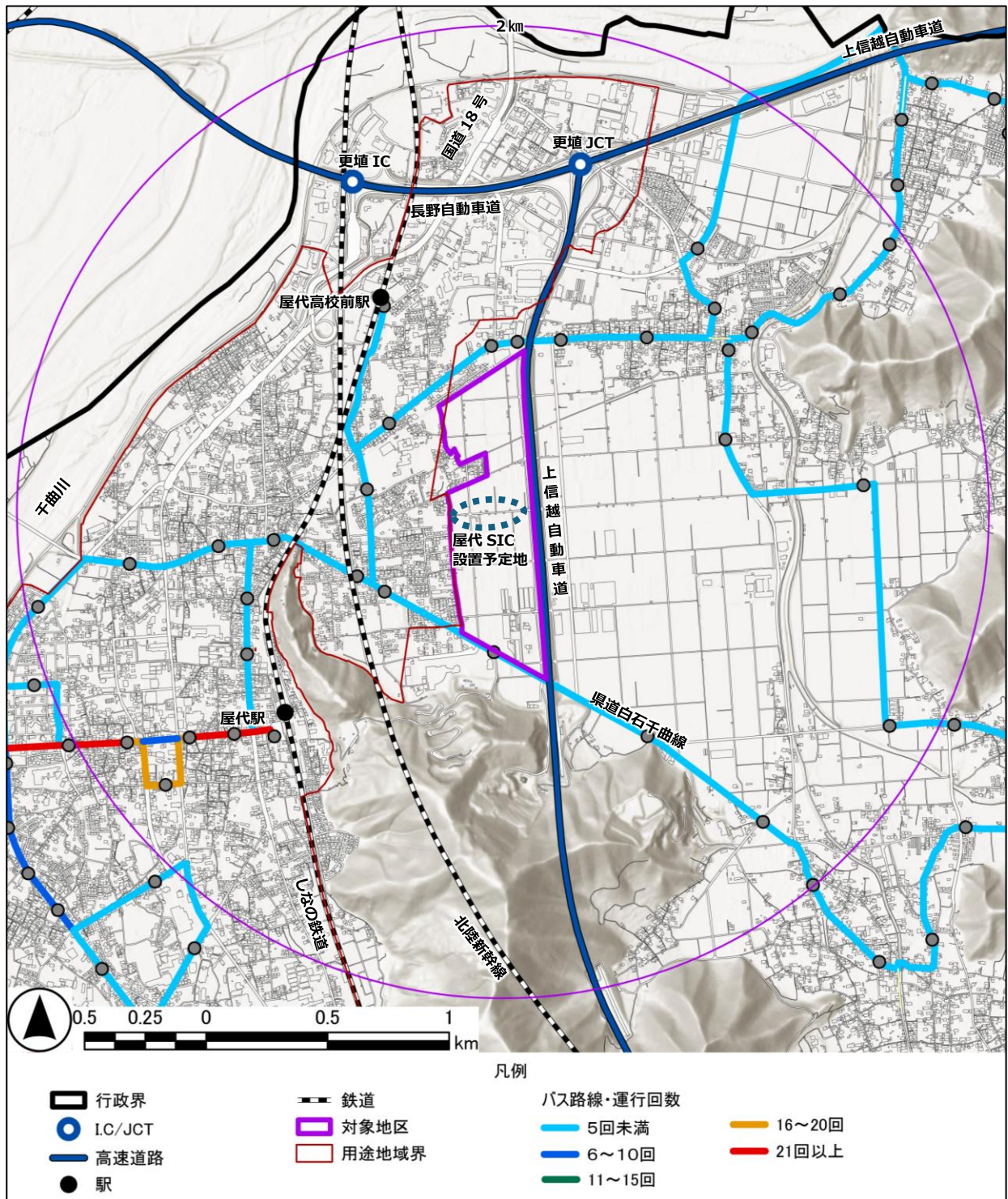
【方向Fの渋滞発生状況】



(4) バス路線

運行回数が21回/日以上バス路線は屋代駅～千曲市役所～稲荷山方面を連絡する区間に限られており、対象地区周辺のバス路線は5回未満/日にとどまっています。

■運行頻度別のバス路線区間

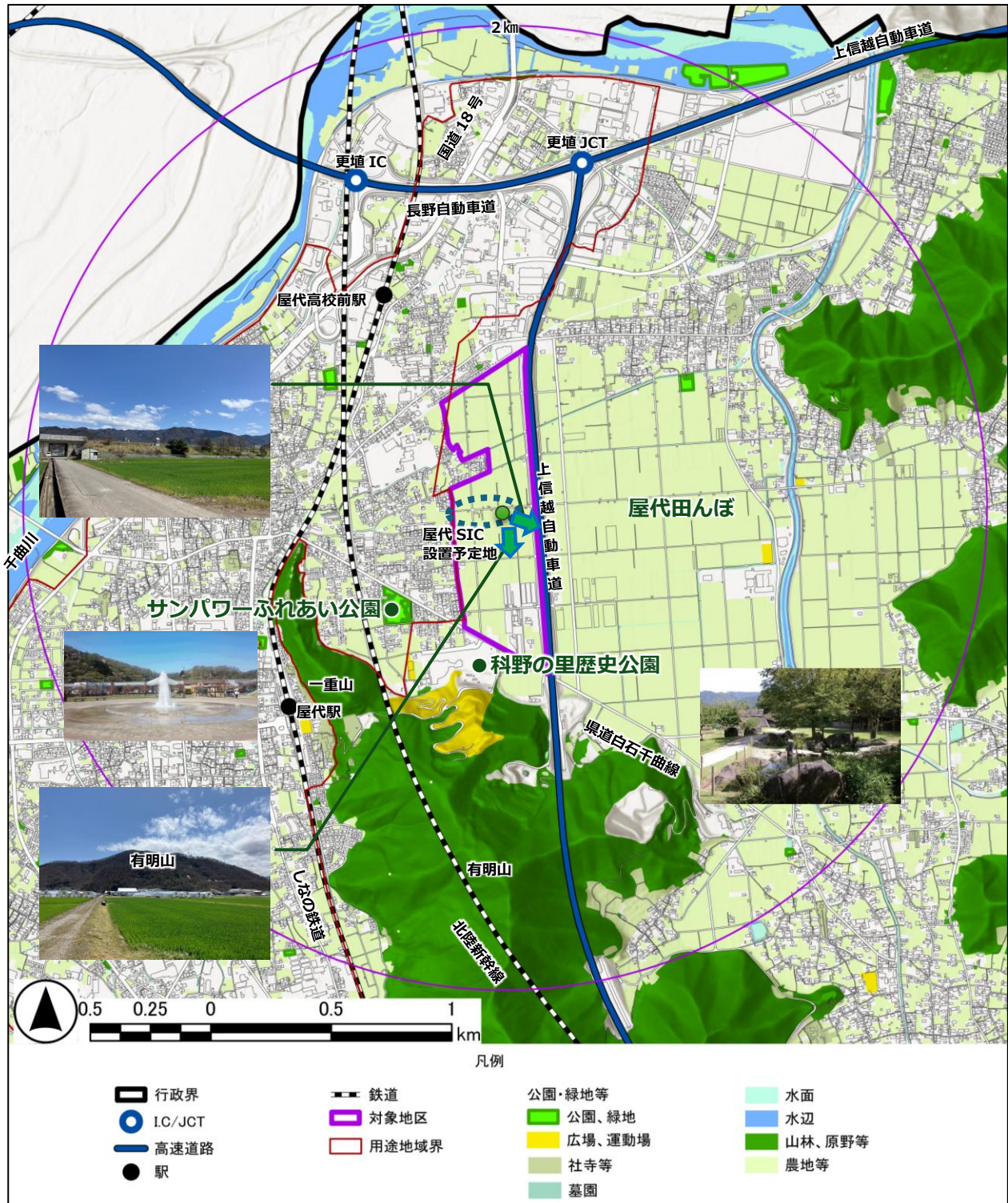


出典：「千曲都市計画基礎調査」（令和3年3月）を基に作成

(5) 公園緑地等

対象地区の東側には、昭和40年代に大規模なほ場整備が行われた「屋代田んぼ」が広大な田園風景を創り出しています。また、対象地区の南側には「一重山」及び「有明山」があり、地域のランドマークとなっています。公園は「科野の里歴史公園」や「サンパワーふれあい公園」といった特徴ある公園が整備されています。

■公園緑地等の分布



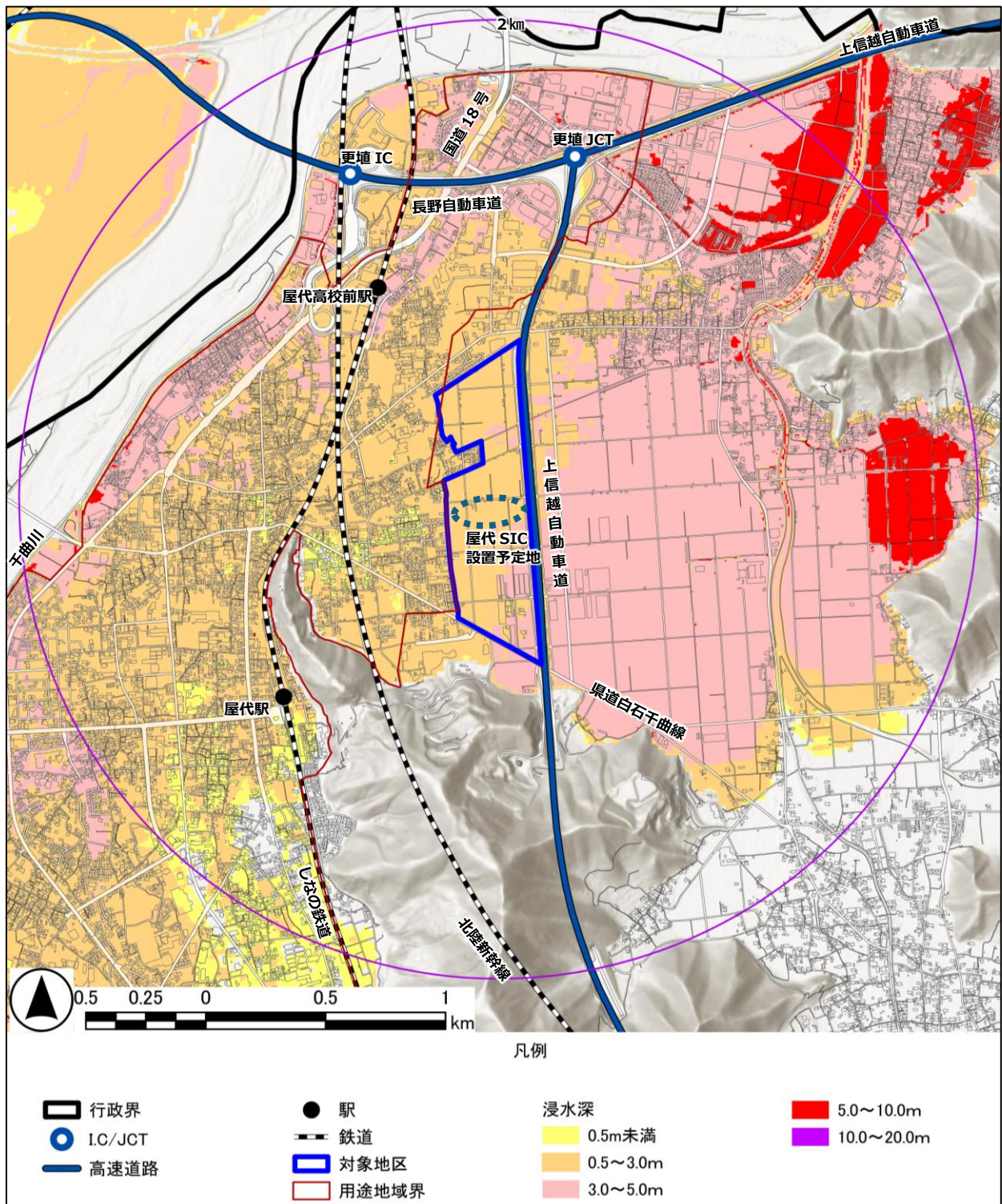
出典：「千曲都市計画基礎調査」（令和3年3月）を基に作成（一部改め）

(6) 浸水想定区域

① 計画降雨

概ね100年に1回程度発生する降雨に対応する浸水想定区域を見ると、対象地区は0.5m～3.0m（1階レベル）の浸水が想定されています。対象地区の東側の農地や北側の更埴JCT周辺の浸水深は3.0～5.0m（2階レベル）が多く、一部には5.0～10.0m（3階レベル）も見られ、対象地区は相対的にリスクが低い区域となっています。

■ 浸水想定区域（計画降雨）

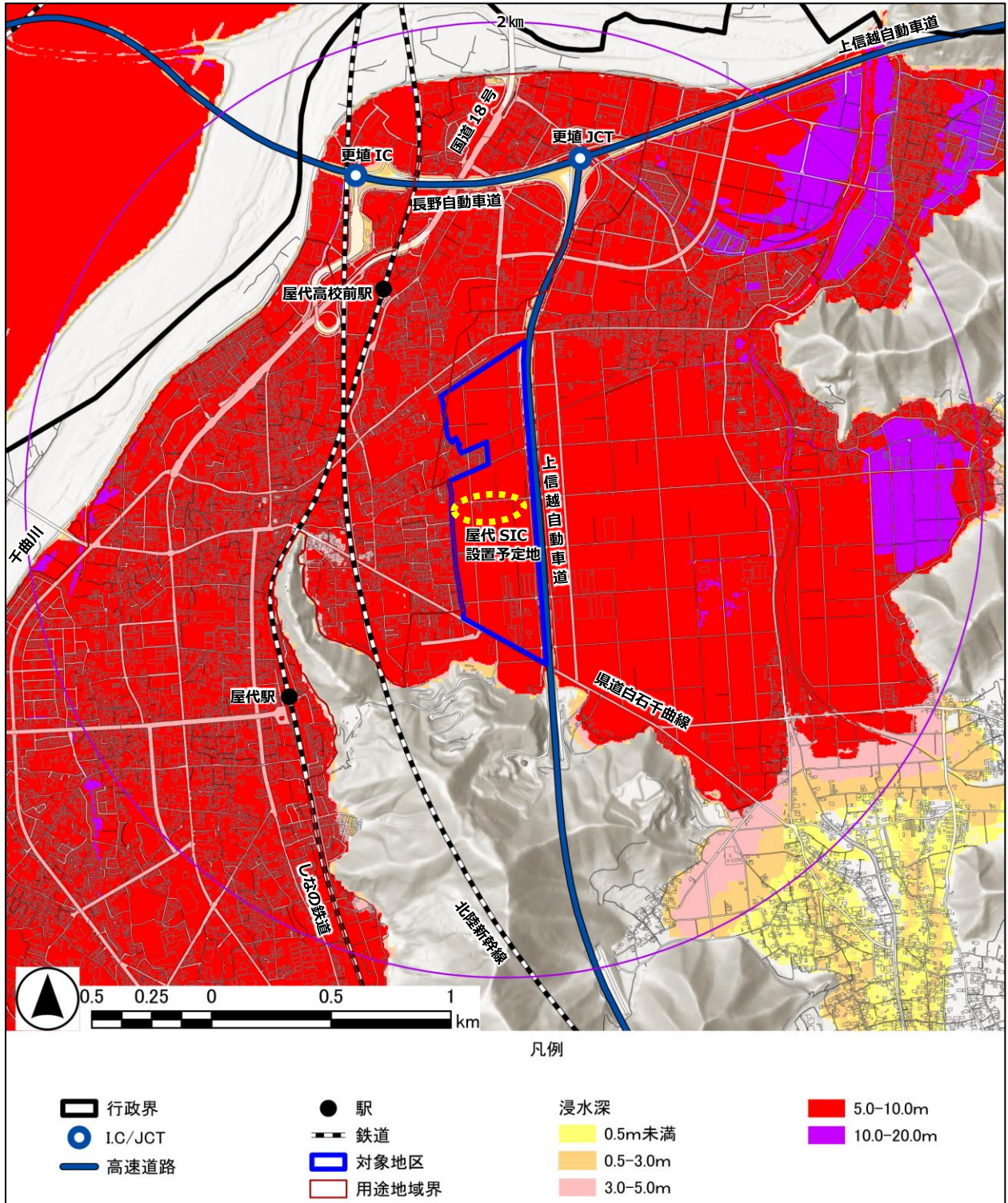


出典：国土交通省「国土数値情報 洪水浸水想定区域」（2023年度）を基に作成

②想定最大降雨

概ね1,000年に1度発生する降雨に対応する浸水想定区域を見ると、千曲川沿いほぼすべての平坦部が5.0～10.0m（3・4階レベル）となっています。市街地において屋内の退避空間となる10m以上の建築物は限られることから、浸水想定区域外への早期の避難のほか、緊急時には一重山等も退避空間になると考えられます。

■浸水想定区域（想定最大降雨）

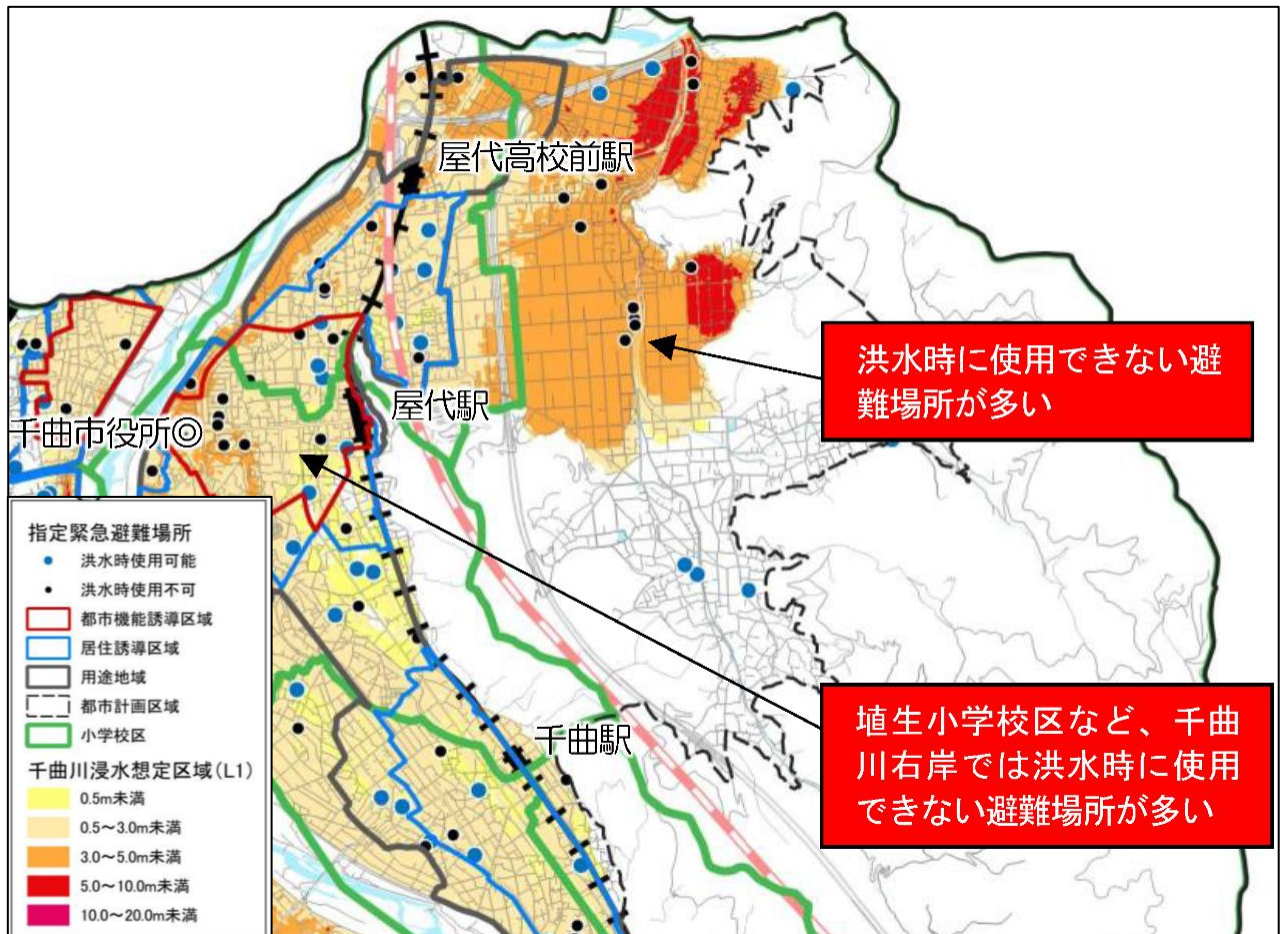


出典：国土交通省「国土数値情報 洪水浸水想定区域」（2023年度）を基に作成

③指定緊急避難場所

指定緊急避難場所（災害時に緊急・一時的に避難する場所）は、埴生小学校区など、洪水時に使用できない場所が特に千曲川右岸の地区に多く存在しています。また、東小学校区においても使用できない場所が多く存在しています。

■小学校区と指定緊急避難場所、浸水想定区域（L1）の位置



出典：千曲市立地適正化計画